尾張名所圖會 前編 六

JL 4
3376
6

呂 門 238 巻 6

ル 4 門 3376 巻 6

尾張名所圖會卷之六

目録 知多郡

知多郡解
六月朱
文章巓
境川橋
石ケ瀬川
八幡社
乾坤院
生路塩
洞雲院
笥飯比天神社
神崎天神社
成石天神社
壬生天神社
緒川城址
伊久智天神社
三盆砂糖
北原天神社
平泉寺
業栗天神社
無量壽寺
富貴城址
祇園寺
仙壽散
大府の三本松
入海天神社
澤瀉井
生路塩竈古蹟
坂部城址
阿久比神社
龜崎
常樂寺
豊石天神社
緒川里





塩竈石
廻り地頭の図
唐松井
入水天神社
武雄天神社

阿奈志天神社
但馬
真珠
妙見齋
比摩賀天神社
野島
木嶋
小磯嶋
惠比壽嶋
須佐の入江
岩屋寺
貝品の図
寶樹院
海鼠腸
幡頭崎
鞭髪魚
後村上帝篠嶋小漂着し給ふ図
同本尊に魚と供養する図
平嶌
胤嶋
大磯嶋
内地嶋
扉風嶋
圓藏寺
須男天神社
正衆寺
伊勢山
内海
乃野天神社
西岸寺
持寶院
同名見の図
海鼠腸
幡頭崎
鞭髪魚
後村上帝篠嶋小漂着し給ふ図
同本尊に魚と供養する図
平嶌
胤嶋
大磯嶋
内地嶋
扉風嶋
圓藏寺
須男天神社
正衆寺
伊勢山
内海
乃野天神社
西岸寺
持寶院
同名見の図
章魚
羽豆神社
羽豆崎城址
小倉海苔
齊年寺
牟山戸權現社
塩湯治
秋葉山
性海寺
義朝最後の図
法山寺
金王丸纏洗池
大谷洞
總心寺
常石天神社
美御天神社
小倉海苔
齊年寺
牟山戸權現社
塩湯治
醫王寺
同神幸の図
篠嶋
日間賀嶋
安樂寺
松嶋
沖久見嶋
鷲渡嶋
奈加天嶋
鯵魚
久須天神社
蜃氣樓
鰯網の図
金王丸足跡石
富具崎
賴朝公大御堂寺に供養しる図
浴室古蹟
長田蟹
高讃寺
天澤院
八幡社
鍬山天神社
小倉天神社
東龍寺
光明寺
保命酒
日永神社
入見神社
富具天神社
大御堂寺
長田宅址
報恩寺
廣石天神社
常滑燒
正住院
龍雲寺
櫟屋天神社
海音寺
内宮社
一口香
慈雲寺
姥ケ石の古事
常滑城址
鬼ケ崎
鑄物司
蓮臺寺
日永神社
牡蠣

古見の一本松　皇后井
正法院　景清宅址
惣五郎塚　蟲供養
琴彈松　長盃塚
加家觀音寺　天尾天神社
良忍上人の傳　荒太天神社
大高村　大高菜
丸根砦址　豊臣秀次公の傳
法海寺　万歳
八幡社　安樂院
横須賀　衣の浦
細井平洲の傳　如来山
觀福寺　業平塚
船津社　名和干温飽
大高城址　鷲津砦址
火上姉子神社　長壽寺

知多郡

當郡ハ尾州の南海中小村〻大なる島なり和名抄延喜式に智多とかき日本後紀にも延暦廿四年七月丙子尾張國智多郡地十三町賜中納言従三位藤原朝臣内麿と見え万葉集の古書に知多と文字を用ひて一定ぜず南郡尾のごとく法あるより尾張と名付初しより説ハ既に初巻國号沿革の条下に述ぶ西南ハ伊勢志摩東ハ三河の海に接し郡中凡そ一百四十餘村東と東浦西と西浦とふ舟ありて風系他郡に絶ず中にも方大井師崎より小野浦柿並まで九浦ハ断巌畳〻として驚浪颯涛常に雪を飜へし又篠海日名賀海など余の小海ハ森花の上に浮べる如く眼前に並びて比較するとき眺望を専らにして文人墨客孔雀浦小遊歴をるもの四時絶るまうし

万葉ノ年魚市方塩干家良志知多乃浦尓朝榜舟毛奥尓依所見

文章嶺



雨迄

ふるのもか
もる
ろの
ひとり
ふれ
うた
いそ
うん

正忠



卍瑞

一代文章主千
年威徳神廟成
聊致祭梅點故
家春

成利

ふるこえ
もるこや
ろん
夕雨
もる川
山れ
物の
初雨

わたちこそ舶こぐみれなのくとちこの浦へ小沼こもる月ゆ　中務卿宮親王

同

たびらこそうち吉すなり知多の江の鶴きの音にけ帰くまて　業金春金剛宗筆

宗集

知多の浦小ふなけもあて月後せ吉浜小月さしおね　山田古義久

わつきち春きりふしちこの浦乃神はあ山高桃ひく　政長

ちこのうれ名波こる沼こ沼古もきこへこ　服

天きしふあのるようちこの浦れ法古乙女ともあ藻かる音　晶

大雄山祇園寺　有松村小ありし曹洞宗小ありし瑞応山と号す天祥寺と改めし又宝暦五年小今の地に移り南都興福寺の僧仏頂和尚を請して開山とす寺内に鎮守の社あり

○近年境内に南都某師の建てし佛足石と碑小ありしを建てり

文章嶺　祇園ちれ後の山と号す天祥寺と共に神廟と祇園ちれ後の山とを共に称して数千人ちり拝けり活ける文章ホとれ山頂小ありし

百倍の荘厳とハちりぬこハ高小有伝の事実大の資材とちり消ぜしとて夫ちりしく

文章嶺と称も山の中腹小ありし石に彫ちく建ちり今尼ありと

冷泉為泰卿の詠あり

本尊　釈迦の木像

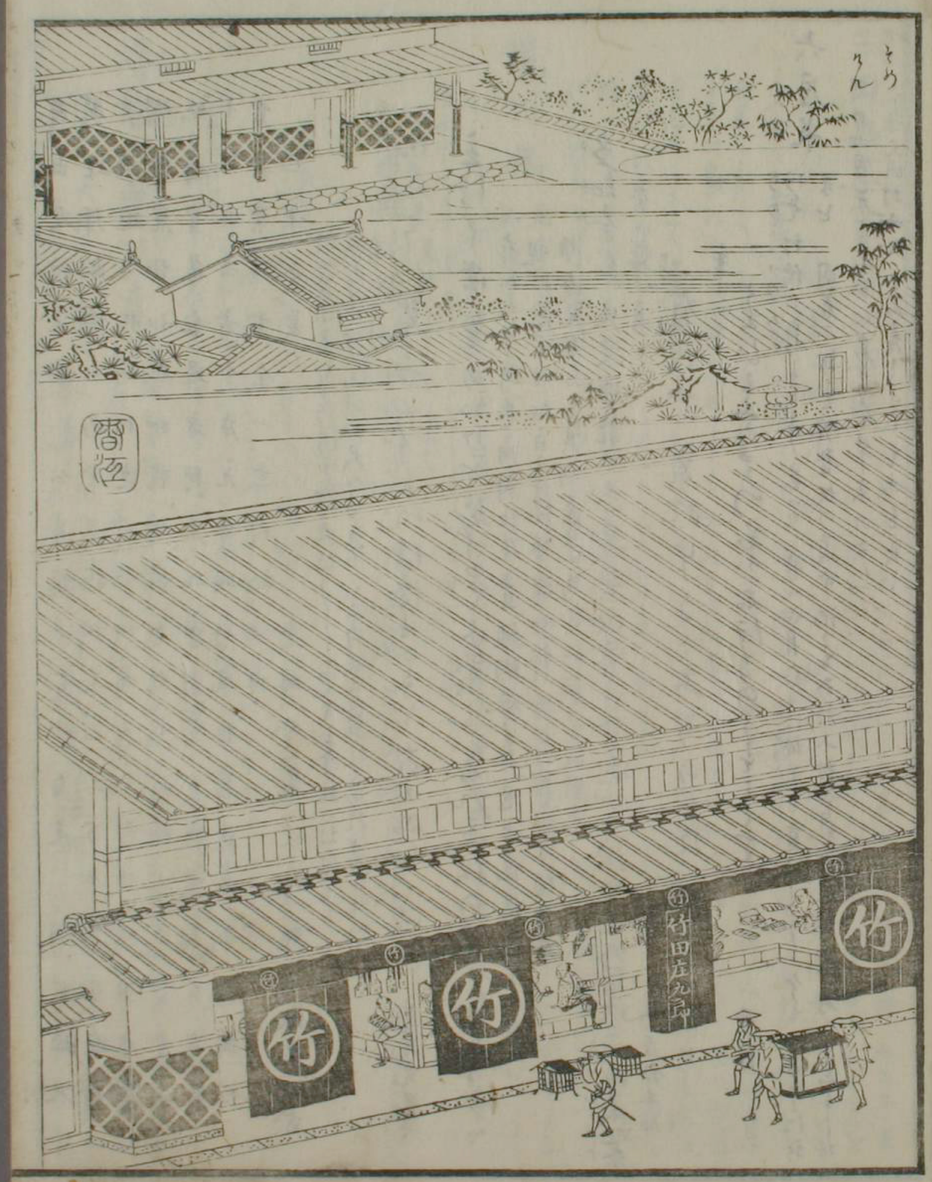
例祭　二月廿五日又八月十六日祭ちあり

天満神の古後れちこの宮居ちちし　等久

ふとのうあちこの男つこいおつるいろ江の流のふく玉　修中納言実熙

有松綾　有松村小て製ちる布ちて作ちる美ちふ計ちうちしまれ東行活況小も田舎に糸ハありまつれ

ちちしき木綿なとちちしひかちちしひかちちしひか



有松絞店

見繽繽涼有感

琉球　章鉅

繽繽奇文傳萬古後孫繼統術逾隆幾人来感風流妙千歳有松深翠中

賀武季豪

上代より
よ世の
幸や
有松に
ふしかハふは
久しき



國出迎献采嚮　公喜後其宅地自是嗣公始入
國迎拜献嚮以為常子孫相承已二百年其法遍精
其徒遍多街衢相連屋舍相接戸〻懸綵綺綿布繁
爛鮮麗恰如花柳競增机匊駢列行旅止歩買者不
絶蘭貿蓄客過者問在九州頗好風雅乞諸名士詩詞以
貢其業頃需余一言因記
巳未之夏　木國司農　神野世猷文徽甫

有松之里街巷相對比屋賣綢綿ノ布過者悦得駭
観似遊花林紅白青緑璀璨如錦有竹田某者獨愛風
雅毎見駢客乞其詞藻予為作一詠書以贈之

多知奈羅夫波那能二志幾登以敝吾登迩加計和多之太留玖々里曽米迦奈
癸巳仲夏　有松や　泉孔中うつるふちのもみぢ
名古屋鈴木雁渚

六月米

うるひまもまつ茶ぶ村稲の熟まるまで昔ハ六月新米と貢せしより今も六月中に新米と　国君の勅を明暦板の道中記もあれど村六月二日に新米ろとうたひ
北の六月米とて世に名高く早米の中一俵ふくり又此村酒肴と名高くてそを味ふ

三田無忍家傳仙壽散

此家代〻東阿を村に住せ名方仙壽散ハ黄胖病の手業にして主ものそし免虚日ふきに和ふう為窮民ふ施与も文ハ施ふう一夫ハ一服ふ文ハ免世〻無忍と称して大廈ふ屋と構ふ門ふ車馬ふ元ふう主ふらせふひて姓濁ふもこの家に入ふて休息せ〻ふて又返享五年三度の御改革家に休ふ一門ハ六月廿三日ふて暑氣甚〻名水ふ乞ひふ葛水ふる〻ふ〻ふ人〻摩上に詩書画ふを收ひ新奇奏ふ乞ふ中ふも居甘菊の詩文西崖の墨画ふむ多〻ふて今も好事の人ハ家に能く屏風ふ貢むべ〻詩文ふ〻多けれバ茲に略す

境川橋

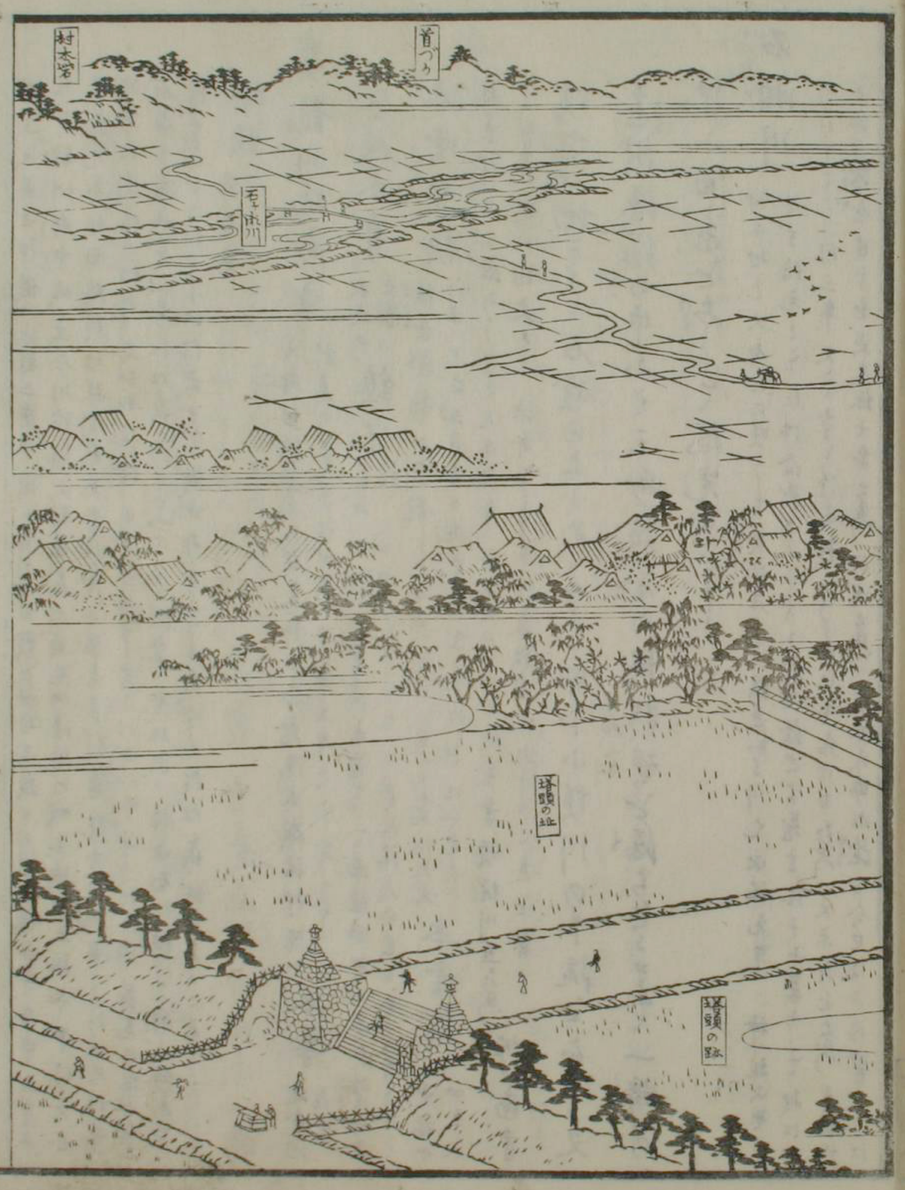
尾三の二州ふう通ふう古ふ多〻ふ川の上流ふう橋ふ架ふ東行沽況に依川ハ是迄ふ渡ふ舟ふ中ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ

古今集歌枕
打波と尾洲のさゝひ橋

打波ふ尾洲ふ東方ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻

延命寺
大府の三本松
石ヶ瀬川





哲公大居士神儀　永禄三庚申歳五月十九日戦死四拾三歳ゟに永禄三年庚申五月十九日駿州府中城主今川治部大輔源義元與尾州清須之城主織田上総介平信長合戦義元不利而終於桶扶間戦死畳山寺二祖主喜引導焼香於此畢ゟ行ゟ又松井次郎八宗信の位牌及び鞍泥障ホと寺領すゝめ南ゟれ西八町半ゟに今川義元の塚あり石塚と通称ゟ門方に如斯侍ゟふ大ゟる池ゟり老松数十株水面に垂ゟて頗ゟ幽景を爲ゟり一ヶ所今ゟ門前まで湖水打ゟち一ヶ所今ゟも於松森湖の名のこゟるゟり

塔頭　東光菴

寶龍山延命寺　大府村にあり天台宗野田善教院末盛祐行照の創建ゟめて享禄四年孝誉法印の中興ゟり　本尊　延命地蔵尊　客殿本尊　秘仏の　木像　鎮守　白山社　山門　近年の再営ゟて画棟脩梁の善美を尽ゟり

本堂竪額　後奈良帝の宸筆ゟて空龍山ゟあて裏に天文八年己亥三月吉日能筆坊園運作ゟ記せゟり　本堂鍔口　文禄十四年乙未九月七日延命寺領掘川五九郎　折南寺

月吉祥日ゟ記ありまゟ天正十年癸未九月七日延命寺領掘川五九郎　折南寺ゟり寄進の記文ありゟ此ホ古記文数多ありぐゟゟゟと略ゟす

境内ハ地ゟゟ石礎の上ホあぐりて眼下ホ境川の下流を望ゟゟ又遠樹煙郊の中ホ百余を数えて風光を恣ゟり

石瀬川　村木村ゟ大府村の境ゟて東ゟ西ゟに流ゟ会戦ゟりまゟ附近也ま発ゟ源十七峯ありて碧に功ありゟ一ヶ所　旧三年又ゟゟゟ流ゟ会戦ゟりまゟに多吾ホ矢田作十郎　婚屋ゟや　ゟ亜大久保七郎左衛門忠世ゟ

境内ハ地ゟゟ石礎の上ホあぐりて眼下ホ境川の下流を望ゟゟ又遠樹煙郊の中ホ三ヶ所荊室の城郭を偏ゟ望ゟまで一瞬の中ホ百余を数えて風光を恣ゟり

石瀬川　村木村ゟ大府村の境ゟて東ゟ西ゟに流ゟ会戦ゟりまゟに多吾ホ矢田作十郎　婚屋ゟや　ゟ亜大久保七郎左衛門忠世ゟ

緒川里　緒川村とりふ　この里のゟゟ実ゟゟ緑ゟゟゟ

入海天神

春日上海鐘山
贈隆上人

僧瑞華

禪餘偶吟
龍宮鼇嶺接春烟雲物
乾坤望裡連祇樹花深
滄海日浙江潮起冷山
巔登樓足擬賓王興卓
錫當知寶誌賢聖見南
旗千萬里不勞鵬翼擊

夕集
松風や
筑ふ入ゝ
まゝ
秋の
巴葉

蒼天

現住
徳阿

探之ゝ
おもひの
おれ
秩川
ゝ
ゝ一ゝの
法ハ

書院
庫裡
玄関
東林院

浦人ゝ
大ゝ
ゝ
ゝ
竹宁

善導寺
入海天神

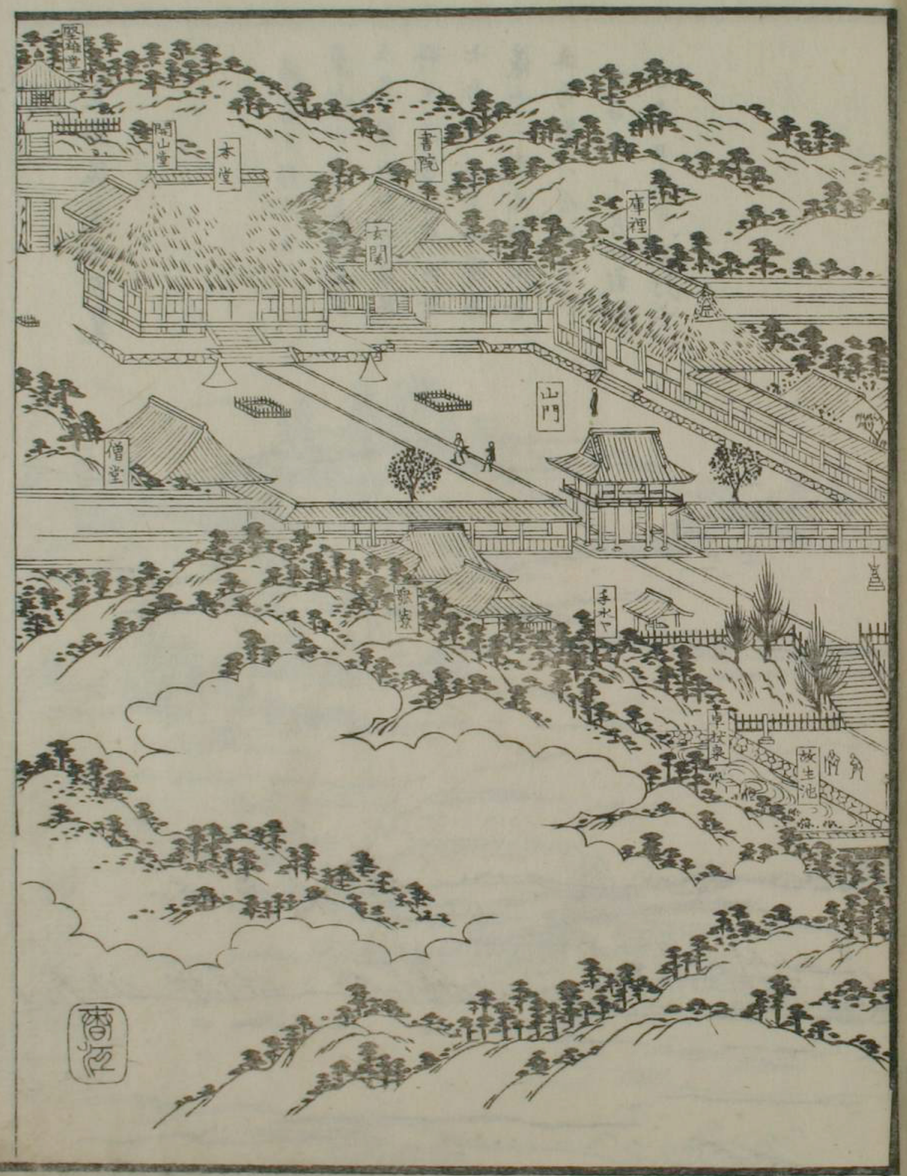
うまごバ入にとる　摂社　山神社　神寶　智多郡緒川住人都筑忠清より　祠官　久米氏

八幡社　同所小河ノ水源上一年戊辰水北義四郎俊道一又天正九年辛巳重修と如ふ　四月五日水北負信の家迎ふり　祠官　久米氏

緒川城址　同村にあり水北義人負守こゝに居る　甚孫義人貫勝まで

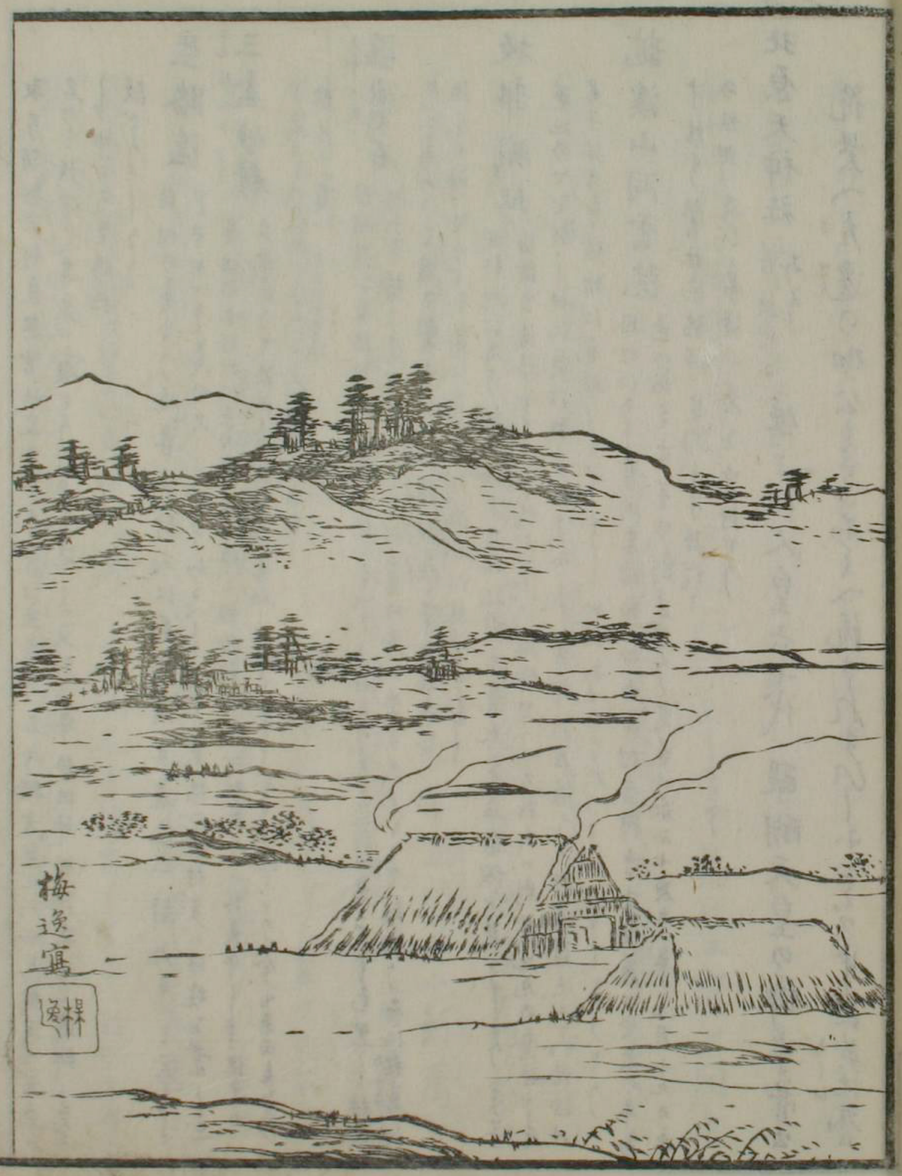
名産干海老　同村の名産忠政より下賜ありしと伝元に如るまぐく左如す　風味も美なるゆへ世ふ是を「バ世ふ是を小川汚老ゝ称す　運送せり

澤瀉井　同村地蔵堂の前にあり武地義元ゝ称をこゝに汚ゝ百日詣をなし一文を筆上に永楽銭の一文のごく井水を汲ゝ鹽漬ちんとせゝ不審れ味ゝざゝ井中数ゝ汚ゝ汚ゝ汚



乾ん坤ん院





生路塩竈の古覧

延喜大膳式云
東寺中台五佛左方
五菩薩右方五忿怒
料生道鹽日別五合
七勺海藻六両滑海
藻十二両未醬四合
五勺醬一合五勺
右每年十二月以前計
來年日數申官行之

取ㇾ弓削(刺)岩則泉忽湧此泉至今存ㇾ号曰生道井若汚穢者汲之則水色俄濁ㇾ三ㇾ度ハ名のミ殘つて其泉ハ廢せり昔ハ生道ㇾ之時ニ生道郷ㇾ之中ごろを以に改まりしとぞ

生路塩 田村の產にて延喜主計式に尾張國生道塩一斛六斗と見えたるハ是なるべし今ハ東浦の濱村多ハ活焼と業とせり

三盆砂糖 享保の末田村れ系田某造り始しより轉して諸國に傳ふ今ハ東郡に於ても作れり

塩竈石 田村及び有松村境を幾の地ふもべて此石ありと云ひ傳へ竈の底小さき穴〳〵ありて塩焼りし時の薪の痕なりと云ふ又腹痛を治する神符ありて其に多年の塩石に捺しもの諸國へ賣ふ

坂部城址 坂部村にあり往古五位下久松紀前守藏系定益南城と築きしより子孫代〳〵爰に居住せり久松氏ハ則英比九の裔孫にて英比の〳〵と仰ぎ世に知る所なれバ英比九の事ハ子孫九郎信俊に至りしより世に知る所なれバ爰に略す

龍渓山洞雲院 田村にあり曹洞宗田郡加木屋村普濟寺末明應二癸亥年南邑の創建なり定益ハ永正七庚午年十月十九日卒す法号ハ馨林宗琳禅定門と子孫代〳〵の位牌及び系譜一巻を寺に納せり

北原天神社 白沢村ふ

**傳ふ曰人皇六十代醍醐天皇の御宇菅公左遷の御公達も亦〳〵へ流されたまひふその中に英比九ハ知多の浦に左迁ありしが菅公と天満宮と祭りたまひし後公達方も都へ召返されたまひしと英比九ハ野尾ふに住まひふ

又小祠 勅許ありて知多郡ふ甚比ヶ社も創営したまひしと今英比五ヶの白神といふハ菅氏を祀りしなるべし

南附里民 正月白神を第一に祭敬の余り彼像を作り今に英比殿幸ひまで民家一日ばく吹毫ふも害ふ彼像を第一之日の上ふ新薦と敷きて妻壱ツ是を乗せて曳り地況よりふ拠て地況ともいふ其像も古雅ふして纏せたまひしとぞ

丸と称せハ 是ハ菅家後集ふに詳れど英比ふ就ては未詳ふ地名ハ近来式ふ下の古書ふ見えたまひしと云ひ傳へ英比殿と称せしとぞ

阿戈と書きて別に英比をよめり

阿久比神社　神宮村にあり（俗に八幡と称す）延喜式に阿久比神社本國帳に従三位前比咩天神社　矢口村にあり今祇社本国帳に従三位前比咩天神といふ是なり今祇社は中世　岡君御祝記あり

鳳凰山平泉寺　角宮村にあり（俗に天台宗也田寺義院末）当寺創建の年月詳ならず開基は法印守愛と云ふ大乗坊と云ひしが又古き棟札に平泉の泉の字を樂の字に誤まるならん

相伝ふ文治六年八月十五日右大将源頼朝公当寺に投宿し一坊泳院営みて月を賞しひし坊の名を四方見坊と改めしと則大乗坊ならんと云ひ伝ふ



廻地頭の図

亀崎

當所へ船着して一千余家ある漁村なり古昌富饒の地なり　其家居もおなじからず又船をも造る　步行して山に沿ふの百余千態おのおの列なりまちまちまちまち　まちまち

神嵜天神

富士見通元亀清水の上所へ銅ぶきせるめうすへとあるは此所なるべし　らしけるを至さまざまなる女にひけるなるべし

名代とるん
亀崎や
尽きあうひある
浦の甘やに
紹巴

…寺に…ぐ…ふ…ふ…ふれば…ふ…
八月十五日…ふ…ふ…ふ…ふ…
…ふ…ふ…ふ…ふ…大師の作…て
御丈三尺余の座像…り
村…の…ふ…ふ…ふ…ふ…
…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…

東照…文治六年十月廿五日…杉…ふ…大御堂

什寶

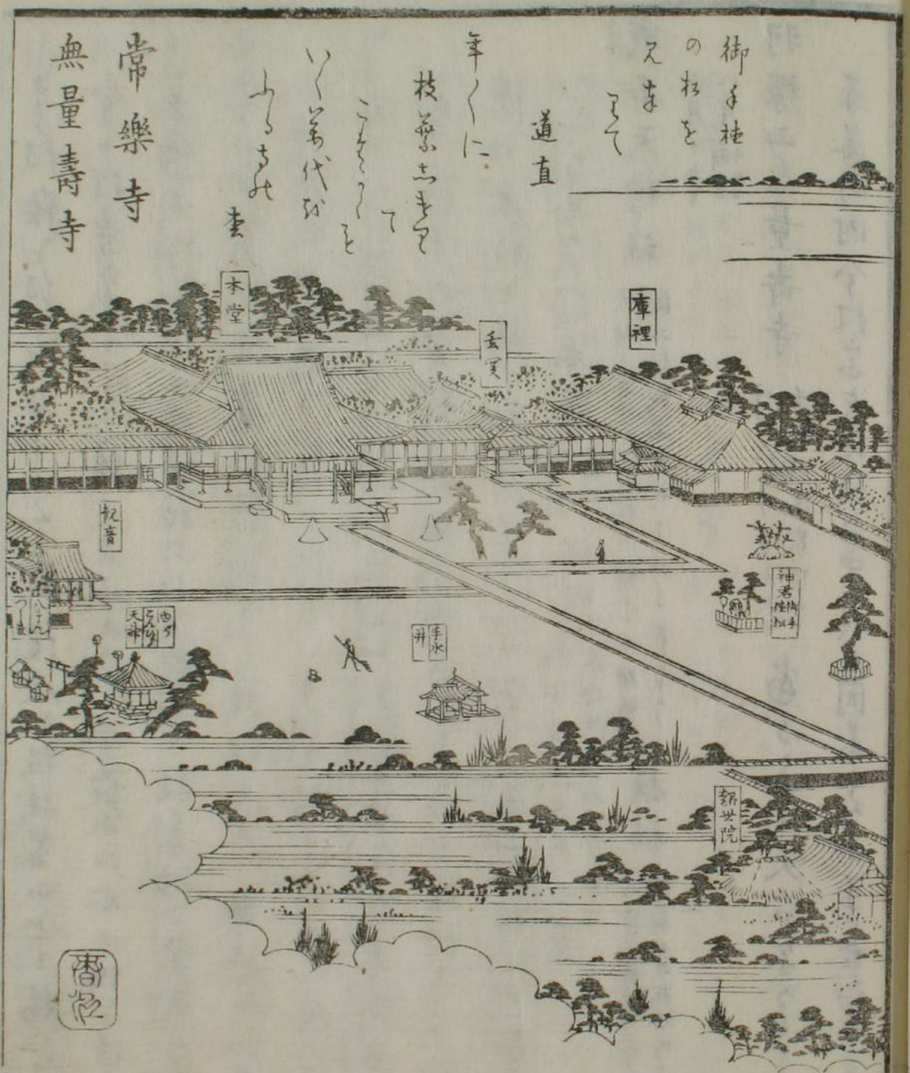
今…此…虫…に…用…ふ…の…阿弥陀…一軸
…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…

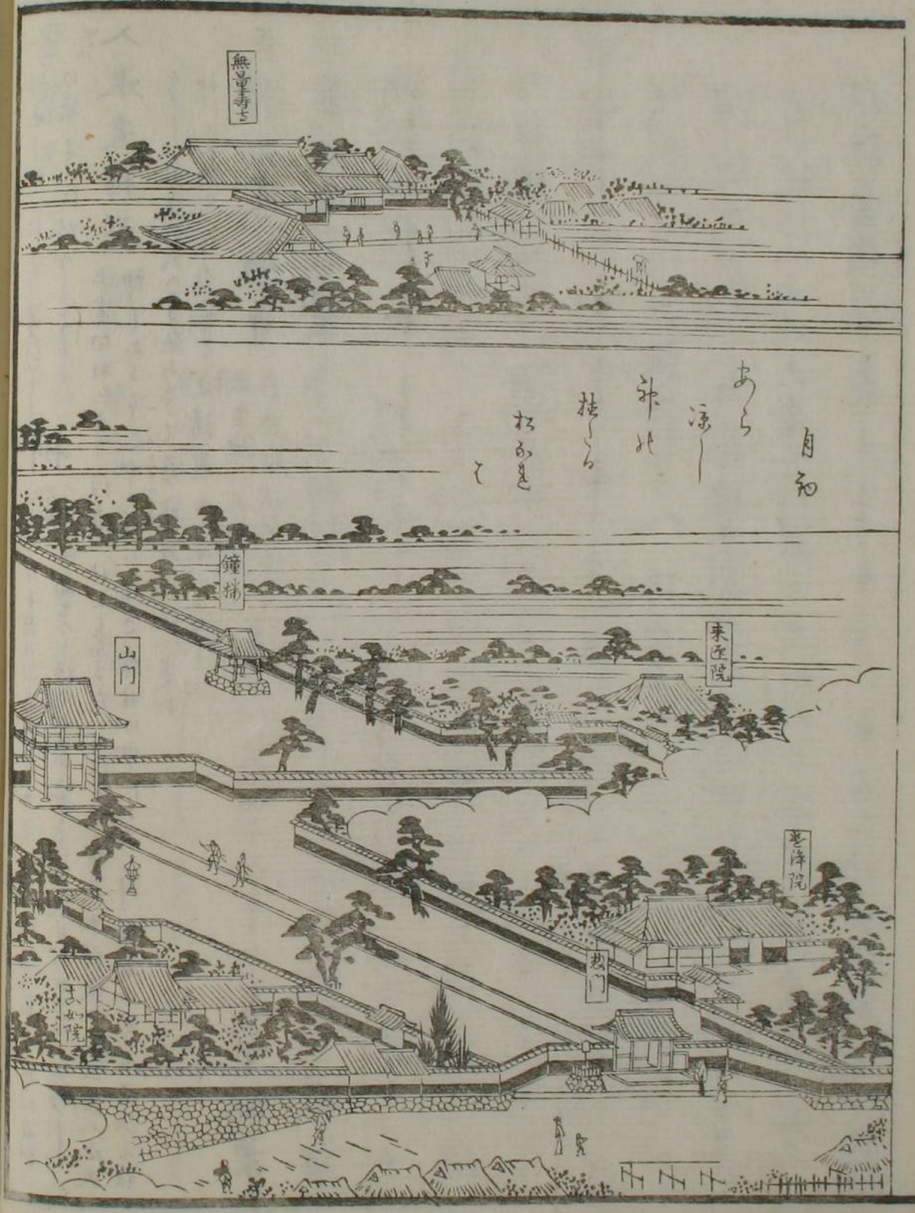
本尊

不動明王　客殿　阿弥陀…木像と

唐松井

…村…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ…ふ


御手植の松をえまて
道直
年〳〵に
枝葉ふまて
こゝろ〳〵を
いく筈代か
ふるもみ
雪
常樂寺
無量壽寺
本堂
玄関
庫裡
記書
手水
新世院
香爐


無量壽寺
あら涼し
弥陀
植しる
松あるじ
山門
鐘楼
東正院
客殿
熱門
まかい院

さは鞍とおさえ給へるとも賜いしぐう
今も杉寺宝としてき後天正十七年堂前小二本の松と洋ふづ
ら植ふいしと今も洋を植の松と称して枝葉洋小繁茂り洋
昔ハる所あるしげ秀吉公れ阿氣を没収を又 國祖君初多浦
小洋を撰の御為に教日滞留ひる所ふるめく賜りし
ふり今に歴然ふり近き比半田村れ小栗某とふしも恵旦那お
ふり救千の資財と参詣ひ堂内の荘厳と修理ひる七宝と
濃め糸粉と施してその篆文ふるがる九品の浄土小ゑまる想
いとうとり○本尊 三ふ佛 塔頭 超世院 遺浄院 真如院
成石天神社 同村にあり今八幡しと称す本國帳に
六月十五日 従二位成石天神と記ふり
八月朔日 十五日
羽塚山無量壽寺 同村にあり東なれも
西まれ院号ふり 本尊 阿弥陀
ふり善の阿今れ宗旨に改め中興の開基ふる了善初ハ大河内

親鸞上人と面会して改宗洋次 三枚ふる同号のちひる共に
塔頭 信光院 浄土寺 教光坊の三宇あり 寺寶 聖徳太子御作の阿弥陀の木
像ふれ奇品許多ひれど略す
武雄天神社 名虎村にあり俗に天王と称す祭非素盞烏尊ひて大巳貴命
少彦名命とお厳に祭るり本國帳に従三位武雄天神と記ふる
もと大社ひて境地の幽邃神威の赫然ふるいく多し
例祭 六月十四日 同十五日
峯社 大日霊尊社ホ境内
及び境外に数多一 祠官 小笹田氏先祖ハ岩田県負ひて南村の城ふるひしと称す
城址跡ふり又笠田堀しふるめひるこれ果負が
墳墓ふるひしふかふるに狗骨樹一株ひる
豊石天神社 大足村の阿波松林の中にあり本國帳に従三位豊石天神と記ふる
境地林さびふり夜月小いと也 本尊 阿弥陀の立像
方ふる波放光の水天に映ぜる
風景実にいちんふるり
壬生天神社 古布村にあり本国帳に従
三位壬生天神と記ふる是ふ
富貴城址 冨木村にあり戸田孫公部こふ
依ふる者多くハ冨をせふしてき滅ふるかく村名と呼ふりハせふしぞ
阿奈志天神社 矢部村にあり俗小八殿宮と称す本國
帳に従三位阿奈志天神と記ふる
海胤腸 大井村の名産ひて毎年 朝廷及び将軍家へ作献上ひる
其製れふどめハ比也に持成表 寄の美俗ありしふ腸醤を調和ふる事と能微

しおぜーに浦人腸を取り洗い浄め籠ふくれば彼俗こと窓ひ紛れ多少に依ひ白海と
擬拟されば浦人未能とるく擬句一見と
けば終になおの名産ともうしら一住境地笑に足えらう南那すくこれと繋す
るとくこれも此村及び伊勢にて繋するを最上品とは淡味の淫物いえんきうく脱俗一の
伽けしむ実に比ぶるき名産こ

章魚壺 同村の海濱にて章魚を捕る業は同郡常陸の
口の狭くて胴の張りたる壺に章魚は壺の中と己が穴蜜しありて這入ると捉ふ
ことも西浦にていえるが如く伊勢にて誘うが如く餌を入れて沈く
ことを章魚
といえ

寶珠山醫王寺 同村にありて真言宗本山
遠うてとくに十三坊ありて今ここに空常院北宝院利生院
永蔵坊ありて四寺ありて残れり **本尊** 左右にあ童十五体にて行基菩薩の創
弘法大師作と伝ふ **明星水** 小宝院の前方にあり清水宝池
護摩を修せしとぞ **寺宝** 鰐口 三年山田郷松永寺の文字あり
但馬 和名抄に智多郡但馬とありて古き地名ら
しき今田畠の庄ども称ふる地ども
幡頭崎 伊勢村にありて又羽
豆ともかけり 波へいふ和名抄に多郡八雲とありて岩山にて断岸千仞峻岩百尺地面
ごとくに波ハ東南のそこふありて
あくに激くとくに波ハ一ツの山ごとくに聳て
と絶ふるふこふく峙ち古木老樹ふ
頂の風系い三面ほぐふして蒼海の無色世界と
伊勢の朝熊神路志摩の日和山まで見え渡り東南ハ
三河れ佐久島かち波伊良古波ふ中に出く翠帯
とりぐく又朝晴の時ハ方ふ南して富士れ雪塗海の未
小浮い迎くい隊波日間賀波北波松波大浅波鷲波等
波波平波かもの波木島波ふ
ちぐもて余の小島ハ数とらぐ
只一瞬息ふして双眸ふ入る山水の勝景実に比地ふまるらはし
比禁に小ろき石山あり土人日和山と称ふ近き比ふ山上に
支干と彫ふる石を居え方位と定ふ風雲陰雨と候い船路
の役ふ立ふ又海天を見む無得の佳境うり又比ふて鯨
と捕るふ行ふ漢れ数十艘おのく又とふく突留ふれと捕

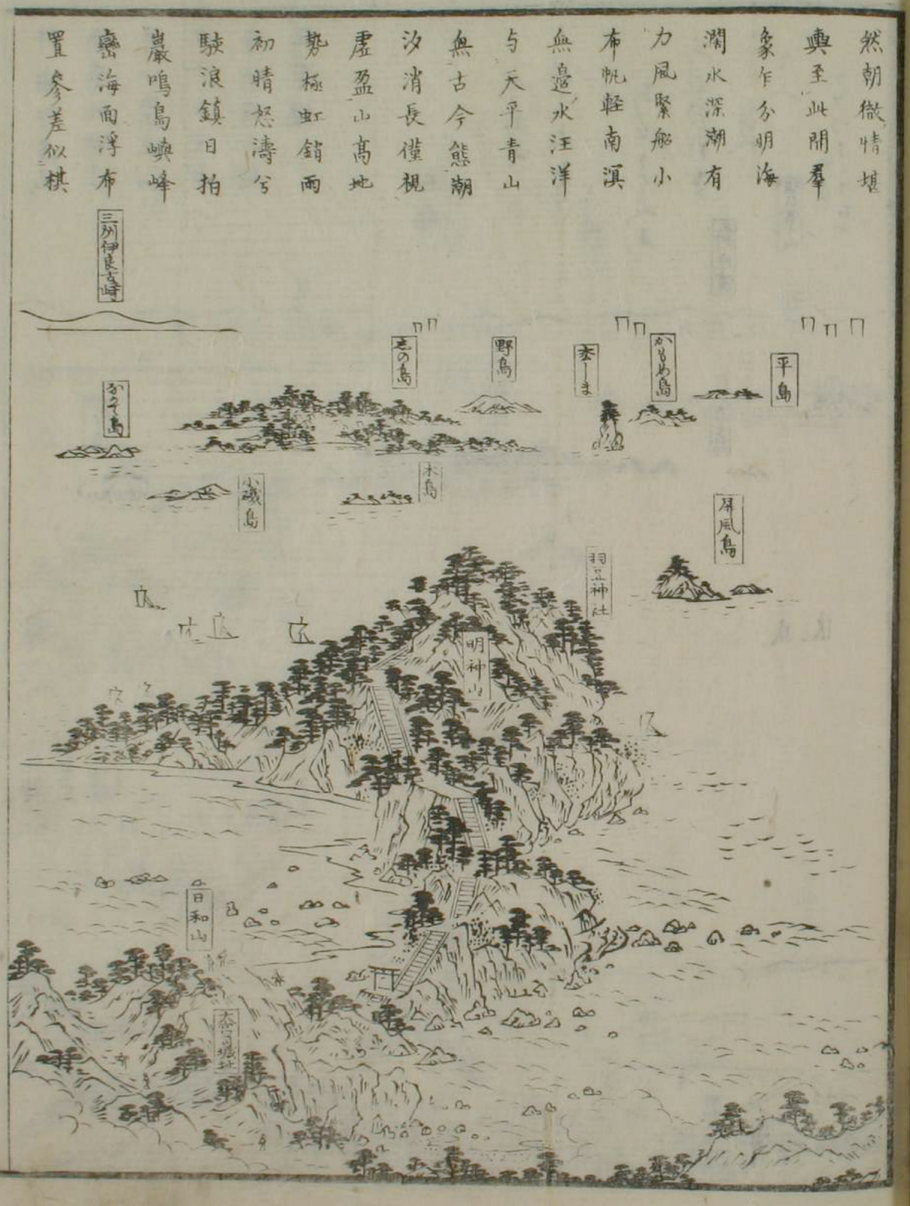
幡頭嵜

日和山より平臨する図

精一

有山臨海峙
嶼屹屹崢嶸
上有霊祠号
羽豆山亦以
羽豆為名石
磴扶筇上峰
巖攝衣行踔
躋巇俯豹下
瞰觀蛟鯨先
起小魯歎詘





然朝徹情塊
奠至此開羣
象乍分明海
潤水深潮有
力風緊船小
布帆軽南溟
無邊水汪洋
与天平青山
無古今態潮
汐消長僅視
虚盈山高地
勢極虹銷雨
初晴怒濤兮
駭浪鎮日拍
巖鳴鳥嶼峰
巒海面浮布
置參差似棋

秤俯仰者見
無窮物悟了
吾一粟生山
水今日全吾
有何須人間
問簪纓

和雄

う不山の
ゆくゑも
きの
わるうへよ
ふの祢を
ま
ふ
ろのるうた。

三列片濃
三列富士山
大小久島
つくし島
つくし島
千賀氏
明神社
神福寺
遠見番所

曲秀

まこもそひ
みうのろ
めハ
いけく
そっ
もつのうろれ
の
天の
あけわの

羅墺

三列宮崎分
三列久島
三列小島
三列くろのろ分

立
立

京海れ
上ふと
秋のタ
うふ

林崎
ひき岩
えびす島
波除石垣

ふ大さ四五尋或ハ七八尋ありてその指
揮を受てもろ〳〵今も録の白骨大木の朽くちるが如きもの
も数多あり又訓ぬ人ハ杉木とのみ思いるをぬべし
神のまします地を古ハ清のみくにふけぬ日をき 成目
ふこの系神は千年を経ても祝ひとゝゆるぬ至り誇也 道直
山多く尾をふるこの姿なり〳〵 師冷の浦 相房

羽豆神社 惣社 諸の命俗に惣社 神建稲 **神名式に羽豆神社本國帳**
小従一位羽豆名神 ふる社なり 尾法氏師冷といふ
この地小給ふ社なり 祝神主 建稲種命と祭りて氏祖と建と
又古事記に天押帯日子命 知多臣之祖也と姓氏録に
羽東首天足彦國押入命男彦姥津命之後也と行り
氏神と祭るなりと 本國帳集説に当社ハ海中に在り
おゝ数十仞の巌上にありて数百の石磴を攀登り絶頂の住ハ

僅に一百余の中りて其左右ハ滄海の漫々たるを直下に
視おろし一四方の眺を絶奇なる多ハ惣て海ハ
又氏山をいまも榊のみ生ひげりて又他樹と交へ淡として南部
の山ハいまも榊こに多し ○ 揖社 神明祠 住吉祠 春日祠
行宮小辻にて祭る十五日本社に還御ありし 三祇神祠 龍神祠 例祭 八月十四日
下向ありて片名村氏神 今片名神明 羽来の神人 神輿と
小祭り幸撃ありては相撲の戯もしありし 行宮 奉幣使差下 鳩の両羊小
羽宮撃後ふたゝび本宮へ還幸ありて 宴饗とりおこなひ 若年もの俗笛と吹て非事に供をもちのぞく又伊勢の神
宮も来りて歌楽をそうしふ是も今ハ廃りぬれど参の行装狩古雅なるもの
国をなして 神寶 紺紙金泥法華経一部 阿弥陀経一巻 奥永十五年
ある 一色統理文
原胡氏入道 太刀一腰 田原淳忠
範のまゝ納し 憲光の事ハ
氏 社僧 白翁山神護寺 天台宗
社田 斎院田 未詳

真珠 師冷との海中にて捕る鮑蛤貝ホのたぐひ 又山海名産図会ふる南都の産と尾法氏の説として産ふ
志摩の伊勢産法の産とふるハ誤なり 是ハ本邦他に絶れり又法ふ刊て法方へ通送ふ是
棘鬣魚 師冷日名産にて捕る亦と絶品よし 也
法鯛の最上なり 又棘鯛又ハ杉生ともいふ
羽豆崎城址 円形にふり惣社冷の
築てこれに居るとふ 東の下に日和山といひ一基ふ中古樊田大宮司
惣庶子孫 義経の不和 義助等く氏城小行を応平年中

つづの

羽豆神社

神幸





一品將軍宗良親王まし〳〵城に住居し給ふ。太平記に屋邑三年九月十八日狼屋刑部左衛門尉義助等流の矢根尾の城ふ楯籠し給ひしに、同廿日洋當して數軍の兵と戰ひ、矢尽刀折れ、義助は流矢に當りて討死し給ひ、宗良親王は十余日洋當して吉野殿へ參らせ給ふと記したり。正平二十四年の夏光資と住居に移り給ひ、細川清氏の臣大高重成等の爲に攻落されて、芳野へ降上り給ひしと志摩一國集にも見えたり。

篠嶋

篠嶋は神島のもと海上一里許にあり。三島と所の者は云ふ。

田庄純嶋とも云ふ。

と負す。又伊勢記に、宋社十六社あり。神明宮頭大社として、あら〳〵國の神社〳〵ふ。

社あり。是も大社にて伊勢遷宮の年その古殿の佛舍具とあれば、是も社造なるべし。中世志摩國ふも屬せしなる神鳳抄に志摩國答志郡篠嶋と見えたり。答志郡へ甚

近〳〵寺院も亦十一宇ありと文祿年中豊太閤尾張海西郡の長浦ゟ移して伊勢ふ參詣の爲篠嶋を尾張ふ定られしふ依り、より四方ゟ參詣志三の詰山一面顧ふゟより微風ふも洪濤山岳を動し、毎朝基礎に當り海上渺〳〵として眼を遮ぎるものなく、晩色の大洋ふ通ぜる實に一小天地にして民屋二百余家ふ及べり。又南ふの眺人と比ぶれふ小延ばせども五人〳〵ふ混ぜざると雖ども、志摩の中ふても區別せり。

古城山妙見齋　篠嶋にあり。曹洞宗。圓所正法寺持。

南北の延元三年宮軍東國へ下らせ給ふ時伊勢の大湊ふ舟を求ふ。舟人風を待ふ。九月十二日の曉より風止み雲收りて海上ふべりなれば舟人漕ぎ出でて海天

幹帚集
翠篠島書懷
篠間孤嶼神區天
家五瀨連山近三河隔岸脉田巖濤湧雪寒渚石生
花魚眼輝朝日屋樓擁暮霞若无左遷罪見月送年
華

松平君山
想地仙人

後村上帝篠島ニ漂着ノ図

小帆とゞめ義良親王及び北畠顕信卿の浮舟を中ふたつに引はなつ天狗颪を通り海風暴に吹れ逆浪天と薙ひ或は帆柱を折られ或は楫を失ひ多くの兵船伊豆の大海嶋の泊に吹よせらるゝ親王の浮舟も陸にくらんくらんと漂ふ光明赫耀たる日輪浮雲のへだてなく照渡るぞ伊勢の玉神風の湊 新葉集小篠浦 にぞ漂着給へりかくて吉野より日野俊基朝臣 勅使として仏像を下し給ふ 後醍醐帝 後村上院 元弘の乱 平記に見えたる事 帝のまし〳〵ける事 吉野の行宮小河の僧坊也 帝井 後村上院 元弘三年十一月 後村上院 帝井 城山 今も帝井とて有 帝の御髪を納めし 古

新葉集

神風やいつみよすゝし沖は猶

日間賀嶋 師後の帝第二里小竹にて御船をとゞめ給ひしより地名となれり 又ぐり又佗ぶ比叡ゝき名 尾ぐろく推て知べし

比摩賀天神社 国府にあり 今八王子と称す 本國帳に 正四位下比摩賀天神と有 曹洞宗 寺未

永峯山安樂寺 国府にあり 曹洞宗 志州金剛寺

の創建にて本尊阿弥陀佛の木像は古く

灵像 引の奥書に于時元亀二年 小書写せり 字体に三ケ年ばかり筆を染る 元亀二年 戊午二月五日 是ノ書畢 殊三日間賀釣深 蕃公用二代メ宗珠藏主五十六歳ニテ書置也 とも有 釣深菴は今廃せりや 足うらねど 四ケ寺の内 行基菩薩 御後 御船の前にあり 小島の一 うら 御船の西にあり 小島 うら 御船の西にあり 小島にて 頗る

野嶋

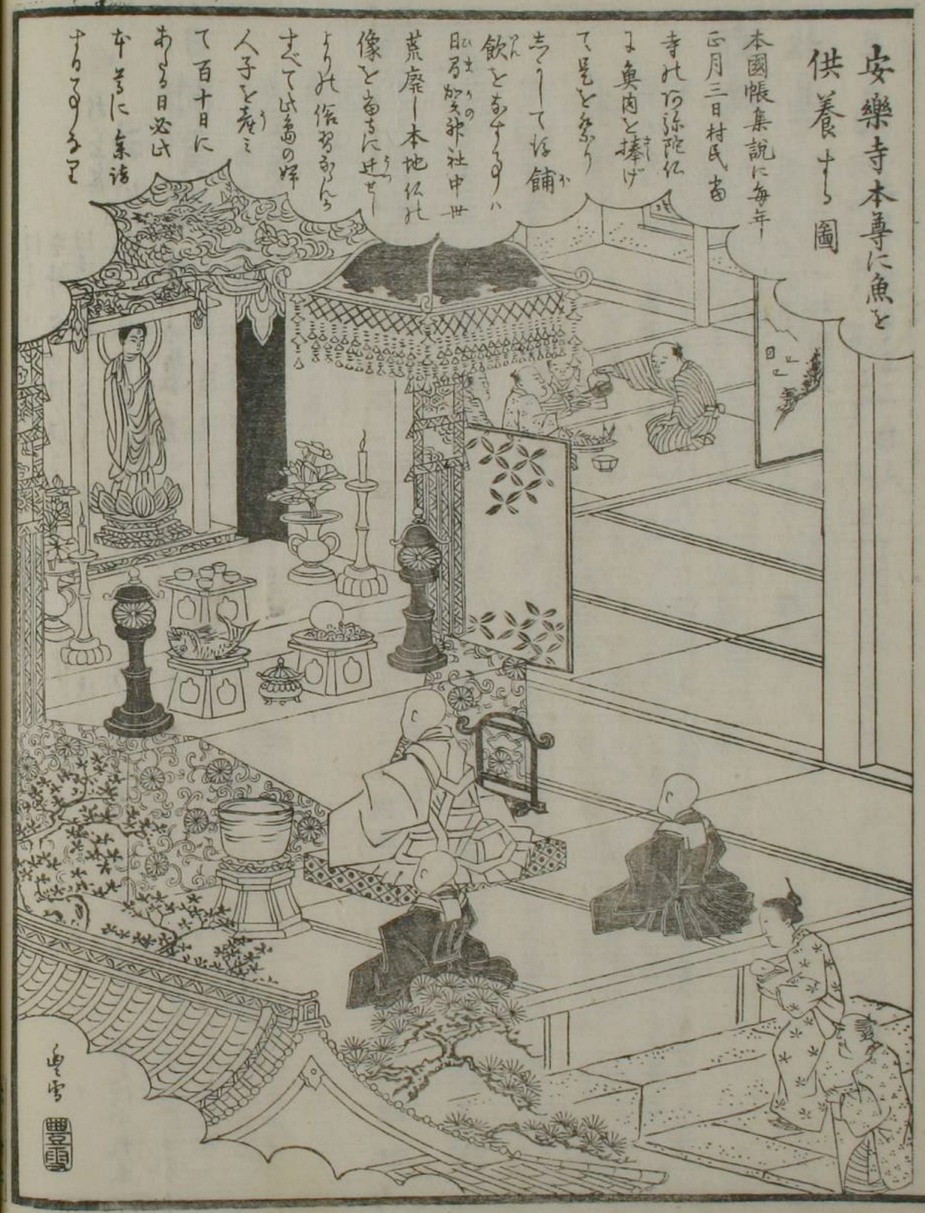
松島

手島

国府にあり 昔いもく平坦なる 小名名 漁を家人家更にうる

安樂寺本尊に魚を供養する圖

本國帳集說に毎年
正月三日村民吉
事を以て除陀仏
へ魚肉を捧げ
て吉を祈り
もつて店舗
飲とあるよりハ
日乃賀神社中世
荒廃一本地仏ハ
像と共に迁せ
よりハ依然あるから
すべて此島の時
人子を産ミ
て百十日に
ある日必ず
女子に乗換
するてふこと



鷗嶋　松浦より平島ハれるにあり一巨石峻立して水上に突おほ
海鷗多にむらゐに集る高さ八尋くく又怒濤浴もそう

木島　篠浦の小ホテルより民家ちく
此木暢茂せるのみ

つくみ嶋　篠浦の東にあり松樹多く
舟とようすること七雑一有に登るとの稀なり

嵐嶋　日乃賀浦の北ホあり
て松樹こに多し

大磯嶋　日乃賀浦の東にあり巌石のミみて
浦潮満る時ハ僅に頂きをのこす

小磯嶋　篠浦の少にあり
茅木甚繁茂に

鷲渡嶋　壱崎嶋　内地島　坐三浦ハ共に日乃賀浦の少にあり
恵比壽嶋　仲浦の海渕にありて一ツ
の岩なり上ホ孤松樹ホ
奈加天嶋　ひくみ浦小俊浦のホにあり
人家なくして茅木のミ
屏風嶋　松浦の西にあり
是また民居なし

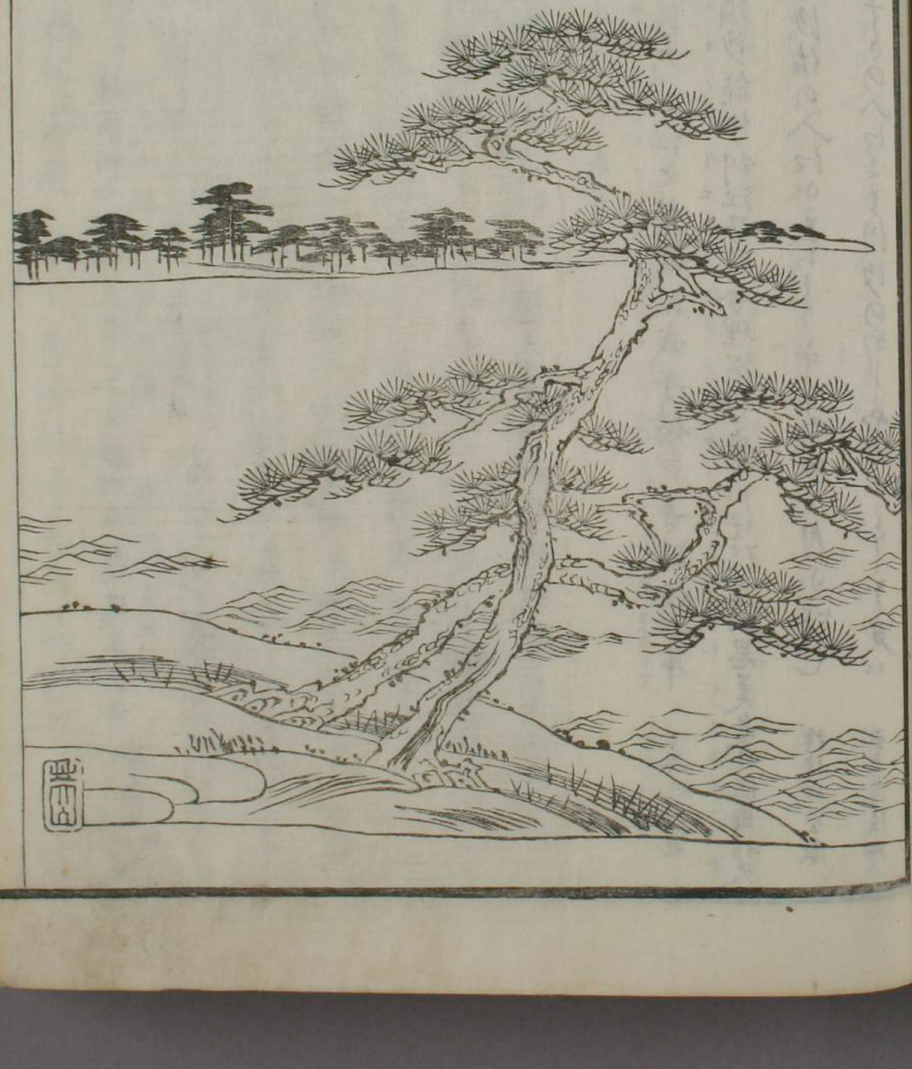
夫木抄に尾張國ちら浦
浦を尾浦の名所と詠され
る浦くのうち松ありと
ハ今ある浦ちし成ハ後世改ちしてそ名

すさのうえ 須佐入江

権大納言家歌

続古今
冬ごもれ
すさの入江の
こもりぬを
この見さむ
こころ
つら





幸盛井入道
前大政大臣

続拾遺
風わたる
すさの
入江の
波こえて
あらきなれ
そ
めぐる沖つ

とうらいもあるべし

白雲山圓藏寺　須佐村にあり　五年の創建　山號にて頗古梵刹なり　本尊　十一面觀音

須佐の入江　須佐村の海をいひて東は小伏の山西は須佐の地をも總て入江ともいふ　名かるもが浦ともいひ或は

井ともいふ又類字名所和歌集に掲載の名所ともすべし　鉾

沖洲の勝地吐懐編に須佐の入江は東國の地名ともいへり

あらく　冬されいすきの入江にこもるなれ　万葉十四卷に

のどむすきの入江のこもりぬれ　是を詠る國未勘

志らなれば掛はゐもいづぐ同土ぞ　あちれ須佐をさの入江のかり

りそめにこゝにあるべし

万葉　味乃住渚沙乃入江之荒磯松我手待兒等波但一耳　よみ人知

同　阿知乃須牟須沙能伊利江乃許母理沼乃安奈伊伎豆加思美受比佐爾指天

後拾遺　秋ぢさむ須佐の入江ふ立ちくる水る月かげ　雅律師公猷

後拾遺　みさごゐる須佐の入江ふ立ちくる水る月かげ　登蓮法師

夫木　あやう刈るさの入江のこもりぬふあり刈田ふれ神もめる比　後鳥羽院御製

西家午首　いつもれもむすきの入江のあしの葉も繁らぬ冬ぞ来ける　為家々

鯨魚　西那东西の沿村にてくる形大きく味も赤他ふるどたゞ面形の名表ともいふ

ときに須佐のあちふ夫木抄の歌の中に象潟の入江にもむ魚の

うきぬあつぬあちきれ世やしるべきうれもあちをふ奥にとうる

あちふ奥れ名うる

よしあるべし

須男天神社　須佐村にあり　今八叙称を創建の年月詳ならず

ある老うり　天孫本紀ふ　宇摩志摩治命十一世物部　真掠連

公須佐連祖とうきれば須佐連の祖神のこにまほを成地名

とうるふ又ある説ふ須佐男社うる本国帳に佐文字脱しなる

ぶしいへる捨ぐかるべし　○神寶　古鉾の摘あり　法に徳治二年九月

十三日荒木田氏の字ふや

池水山正衆寺　同村にあり　曹洞宗　洛天沢

院末　創建の年

久二年　紀詳ならず　往昔長面寺と号を建

澄法今も仏を其末文よ云岳清佐寺也高藩我中守可知

岩屋寺



地清寺亦古
嵌巖抱山敷
巖頭石羅漢
坐立各參差
含悲和鳴鳥
来說陀羅
尼

精一

行之とぞ　まに花押あり　志賀建久二年かゝれども建久二年かゝれども

右大将ふ任ぜらるゝを辱なく佐と呼ぶは頗る附會ふ似たり且鎌倉

越中ふ宮町ふ将軍家に仕へし人にて時代もそぐひもそぐはず

く後考を俟つ　○本尊　秘仏聖観音の木像脇士

掻ぜり附ふ拘ず岳大の延線小及びされば

ら多仰ぎ奉今も枝枝幹共ふ栄えり

大慈山岩屋寺　岩屋ふ村ふあり天台宗地田密蔵院末ふて巖窟に巨巖多くあるに依りて号す尾陽雑記ふ勅使押ふ納ふ

尚更ふ下り給ひて千眼光寺ふ勅号を下ふたまふとぞ　天台宗地田密蔵院末ふて巖窟に巨巖多くあるに依りて号す尾陽雑記ふ勅使押ふ納ふ

基菩薩とぞ　開山ふと　本國須佐掃部助長治等創ふ

火災に記漏ふ候ふ弘法大師曾ふ此地ふ

来り清浄の霊場ふて百日ふ護摩を修ふ正観音の霊

像と巌穴ふ崇められるを則ち奏の院ふて女人結界の掟

と架ふ此所と女人の拝ふまず　文化年中宮海律師

秋九鬼大隅ふ寺宝を奪りんとて堂宇ふ火をかけふが遂ぐて

止りふ至候痕今も相ふ残りふ此昔ふ十二坊ありて尚ふ

ふぞ候頽廃ふ今僅ふ五坊のみ存りふ中坊梅坊

谷坊南坊杉坊也　○本尊　千手観音ふ文珠井の湧ふ開浮

檀念の為ふて唐の楊生処ふ

奉ふ安置ふ候ふ一体ふ者ふ大海の水ふ濡ふ此地ふ来ふ

民ふ救ふ為ふ一体ふ者ふ巌窟の霊場ふ

尚ふ巌窟ふ霊場ふ候ふ　寺宝　宋板の一切経　慶長三年の奥附

土像　弘法大師の作　涅槃像　北魏司空の筆

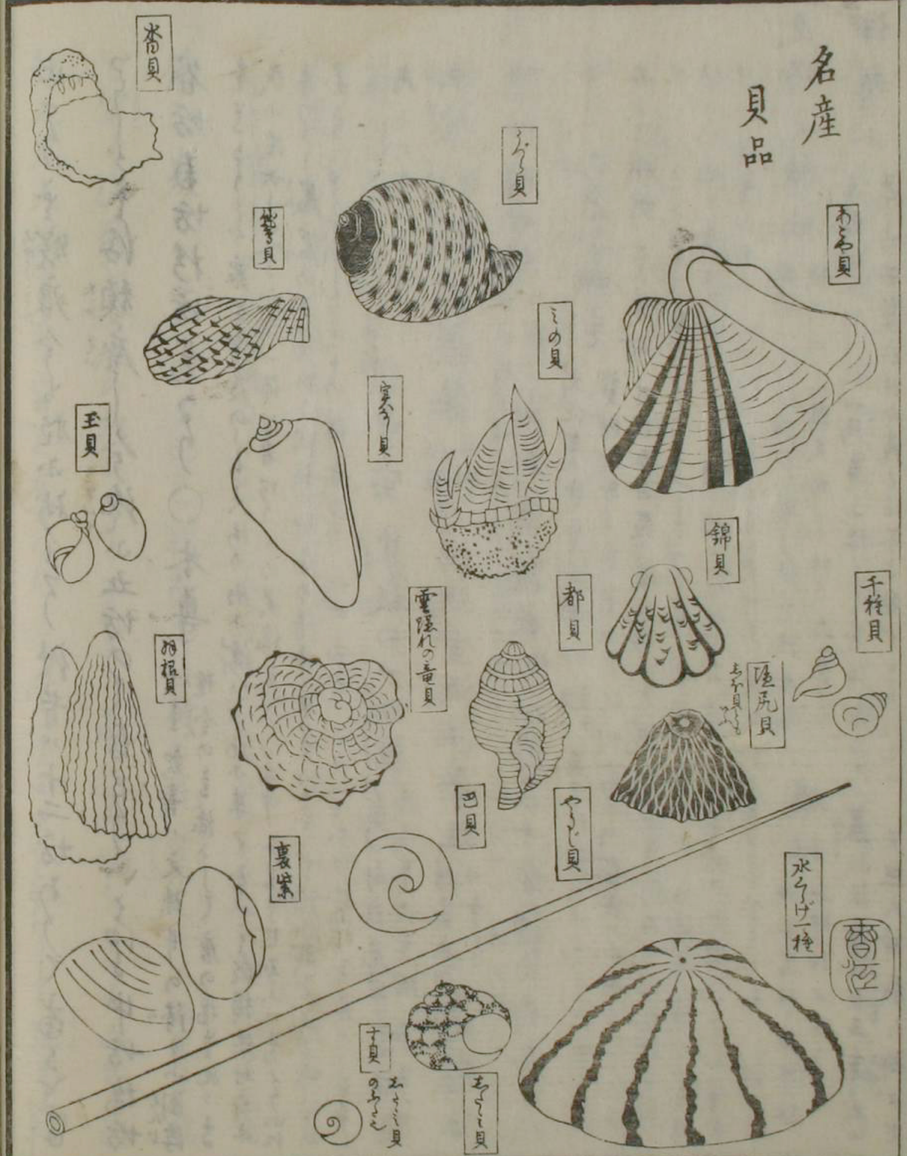
陀経同心経　中ふ施ふのまゝ　役行者錫杖一枝　外三十余種の奇品あれ

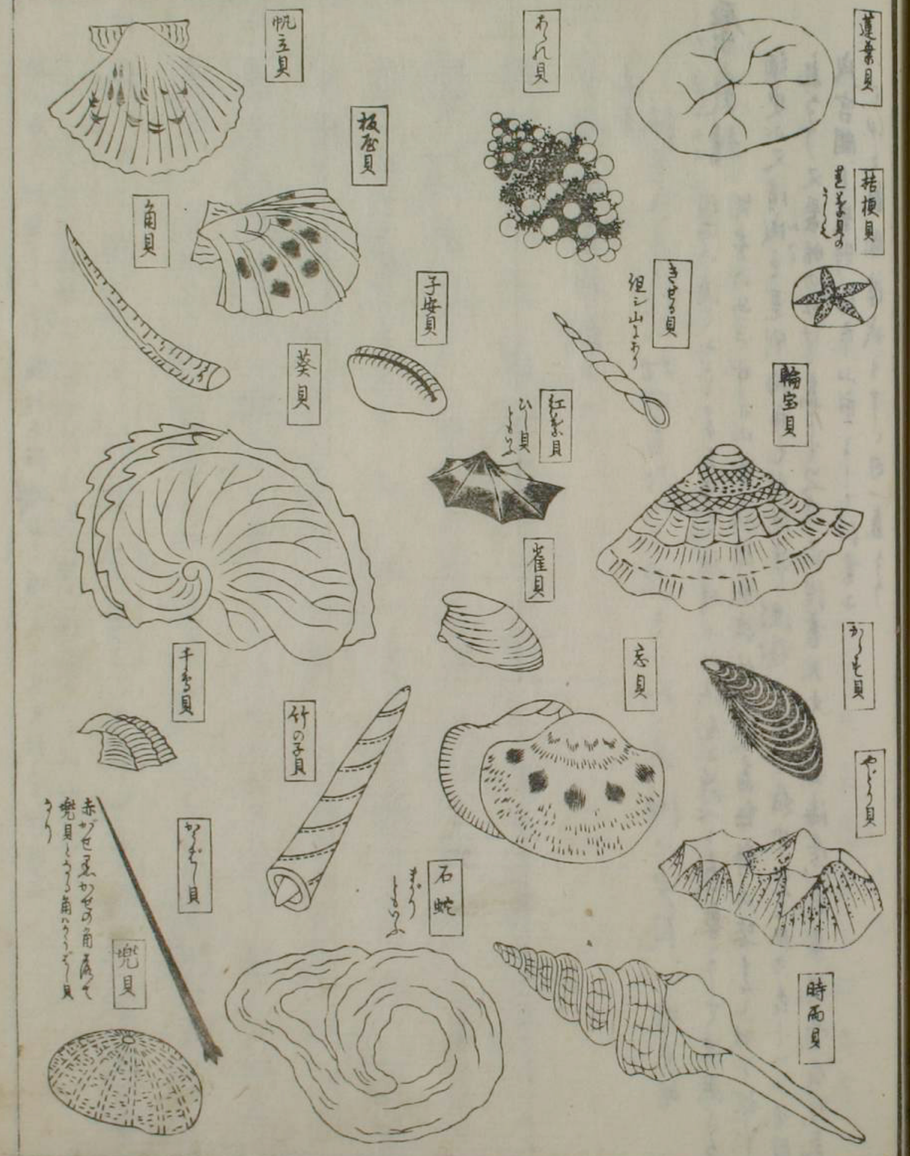
ども略ふ　資財ふ　石ふ脇剣ふ仏井及び五百羅漢の像ふ

久須天神社　梅村にあり伝ふ八幡ふ称ふ本國帳ふ

伊勢山　東端村ふあり山法華ふ

名産
貝品


蜷貝
あこや貝
ふぐ貝
螺貝
ミの貝
宝貝
玉貝
錦貝
都貝
千枝貝
重弧化の蛤貝
陸亀貝
巴貝
やぐら貝
羽根貝
裏紫
水くげ一枝
十貝
むさゝご貝


蓮葉貝
帆立貝
あこや貝
拍板貝
板屋貝
角貝
きせる貝
但シ山より
子安貝
蛙貝
紅葉貝
いゝ貝
輪宝貝
雀貝
千もと貝
忘貝
うつせ貝
竹の子貝
やぐら貝
やぐら貝
赤ガセ貝の角にて蛸貝をうつ
蛸貝
石蛇
時雨貝

内海　もと庄名なりしが今は村名となりぬ又大村より伊勢山
内海　もと庄名なりしが今は村名となりぬ又大村より伊勢山
内海　もと庄名なりしが今は村名となりぬ又大村より伊勢山

内海浦鰯細（いわしご）

鰯細ハ五月より
十月迄毎日ある
一細ニ人数百人
船数十九艘ニ仰
大船二艘細ノ二艘
小船二艘サイトリ舟
十二艘ニ合テ大細
一艘ニテ細ノ大サ
長三百六十二尋中
六十五尋ハカリヨリ
モッメ漁父ノ多寡
ニテ魚ノ多少ヲ
知リ網シテアルヒ
トヘヅヽヨセ細ヘ
入テ活魚ヲヨセ網
ヲ上ヲヒキアケ入ヲヒロケ
シムルヲ待テ魚ヲ
大船ヘヒキ込ムヨウ
五手入ノ網ニテ
サイトリ船ヘヨセ
大概一細ニ千三百





鰯細
ひくや
くれゆく
帆うら
もく
芝山

紀伊ヶ国ハ
いそ一帯山に入時
もっとも多く入ル



井際山持宝院　馬場村にあり古き寺号
もも村万法寺ま

年ちり〳〵伽藍わりて観福寺と
号し中世頽廃して只記号堂一宇のこれせしが寛正元年庚辰
全きしより僧再建して今の寺号に改むるも今も猶記号
堂といふ古名を呼ぶ〳〵訳福ちよと云むし〳〵法大師加持のして湧
あり一裏の井今も山下にありさて救百の石碑を登れば訳名里
あり〳〵ちよりまとやめば蒼海の果に羽黒山とん後してその風
景いふ斗なき又焼内及び近き山〳〵ふ桜楓数多株ありて
春花秋紅雲ふまじい景を数〳〵風景ハさるぐ〳〵変態動揺
なる画図みて実に絶倫妙境の地と中ふと訳名年代
いふり山までいふハおか十倍ぢり〇鰐口　元永二十二年の銘あり　故世尊額　晁文関のま
筆ふれ〳〵ねの雪ふきれ〳〵ふりよたつる花の雪　栗田紹周
山ちとてやちん拍子ふれ〳〵ふちぜる　鈴木真実
真まちりやて花のねくさきいそんもとまて　大隈直亮



あるべくもあらず家遠からぬ谷の山風　　雨田梅清

秋葉山

同村にあり齋祢西浦中一の高山なり
中古山上に秋葉の社を勧請せり
弓神村より山上秋葉山をうつくしく東西の海湾眼下にありて
を経りて雲門に入るうつくしく東西の海湾眼下にありて
あふの村里草舎にさながら八幡やの浦の景

竹有

金玉丸足跡石

同村の山中にあり高さ僅に
ばかり石とはいへども八せうの
多く時忠没後思ふ中より金玉丸近侍せしが大
りしむされば金玉丸行んうく渓也にありし
迩にも達中老婆に化ひ会いる事を聞
丸怨怒に堪へず妻をうらみ彼老婆
丸の踏けん石を足跡石といふ
流大滝壺ちの修行も古跡ふ
松井田のきにある由り名大石は足跡石の
俚諺に似れども来由れ久しきまこと
ふ

入見神社

中々村ふありて五男三女
と多くあに八王子と称に内海十六村の本主神にて延喜
式ふいへる入見神社本國帳ふ従二位入見天神と行ふ
社前ふ古樹一株あり唐ホうの
ようにて名洋うふ

摂社　白山祠　熊野祠　洲原祠
祇神祠　大将軍祠　金毘羅祠

例祭　八月十七日
試楽棒のき
行列ふあり

祠官　市川氏



姥ヶ石の古事

龍海山性海寺　同村小竹ノ内曹洞宗三州荻村訥際ヲ求永正十五年戊辰依治ヲ以テ
古中ヲ為縄今ノ地ニ立ツ始テ伽藍ヲ営ム紀村ノ村ノ一ヲ文禄元年壬辰依治
ヘ〳〵勢雲寺ト改号セシガ又ヒ〳〵ノ兵火ニ罹リ旧号ニ復シ依治依治代ヲ以テ牌子ヲ立ツ
本尊　釈迦ノ木像　寺宝　鞍鐙　依治依治古中ヲ伝ヘシ物ニシテ
富具崎　細目村ニアリ石磴回旋懸崖突兀シテ
漫々タル波浪ニ洗ヒ流眺ヲ専有スル風景ナリ　尾張風土記残編云此
山諸木欝茂シ四時為緑西崎嶇臨海東岩壁洗潮天清気朗
則勢州山岳在一瞬中云々最ヨクその風光ヲ形容セリ
富具天神社　同村小竹ノ内俗ニ風宮ト称ス式内神名帳ノ
正六年巳巳当村ノ城ヲ繕川氏ヲシテ専管ヲ抑南社ハ海岸
絶壁ノ上ニアリ〳〵ヘ往昔ハ船舟ヲ社前ノ小玉ノ浦ニ繋ギ必
帆ヲ飾リテ参詣セシ由ニ神ヲ崇敬スルアマリヨリ和名
抄ニモ富具トアレバ土地名ノ起リ古シ
天王祠　楠祠　八幡祠　恵比須祠　船玉明神祠
磯神祠　山神祠　富士神祠　等アリ
ヲノ〳〵社ヲ構ヘアリ
例祭　正月上午ノ日水戸ヲシテ村民ヲシテ
ヲシテ六月十六日祇園会アリ

〇摂社　神明祠　多賀祠

大御堂寺　柿並村にあり古名宗岑地方住寺未詳　南寺所蔵の天文三年甲午三月日
勧進帳小　白河院の御建立兼暦年中草創〳〵〳〵東經
小文治二年閏七月廿二日前廷尉平康頼法師浴恩澤可為
阿波國麻殖保々司元平氏家人散位之旨所被仰也故左典厩義朝墳
墓在尾張國野間庄無人于奉訪沒後只荊棘之所掩也而此
康頼任中赴其國時寄附水田三十町建小堂令六口僧修
不断念佛云〳〵仍為被酬件功如此云〳〵〳〵〳〵〳〵武ハ
白河院の御宇汝よ比寺ひらき〳〵考〳〵と康頼別に
一堂と建〳〵享禄四年十月十三日此兵火小焼失一只
大御堂及び楼門のみ存り天文三年甲午三月伽藍を再
修ちと雖も五年の秋九鬼大隅守嘉隆侵掠せり什坊舎
を焼拂ひくづり頽廃せり近年重修して又旧のごく堂宇
依然〳〵り抑平治元年己卯十二月古馬頭源義朝京軍のため小



内海
富具崎

晃大洲

鞏厭塵囂累言尋
物外遊携琴倚怪
石載酒望行舟万
嶽既鋪雪千林早
諏秋幽賞水云徧
唯見夕陽收

戸田壽平

望入南荒不見山
蒼波渺々遠連天
風帆幾片飛如鷺
知是東行萬斛船



森真齋

鵬雲飛盡大溟開
潮送千鯨響若雷
參勢相欹恰似闘
銀濤百疊直排来

敗ぶれて濃州青墓の長者大炊が許に落ち来り東國へ下らんとするに大炊ハ頼朝の下向あるべしとて年を送りおくるうちに下向あるべしとて年を送りおくるうちに伊豆の北條殿より討手の向ふなりと告げ知らせければ大炊ハ頼朝を打ち殺して恩賞にあづからんとて二三百人押寄せたりけるを佐渡武郎大輔重成討死して通しければ頼朝自害をせんとて馬の鞍を置き腹掻切らんと宗に臨みしを畠山重忠小舟に乗りて来り仕ふまつりければ小舟に乗りて来り仕ふまつりければ

廿九日 或ハ廿八日

南部兵衛尉忠宗 或ハ忠政に作る

小舟に乗りて来り仕ふまつりければ

廿九日 或ハ廿八日

南部兵衛尉忠宗 或ハ忠政に作る

及び舌先ともに四人の忠宗ハ普代の山家人にて

弥七を召及び濱田三郎八を遣はし教へまゐらせ
せよと密かにこそ命じ給ひけれ三人と床下の悪口を聞き
政義朋れば法師前の如くに道をそこれ法師道
清湯召さるべしと聞かれば軈て湯殿へ急ぎ
今王丸八法刀を持ち何候せしが湯浴衣を
法華ふたうれば今王丸大小怒を自ら取り
床下より掴七郎彦〳〵を組み
捕て押へ膝の下に踏まふ
より走り出る三人小脇の下を刺し通しけれ政清八
なきや今王丸なりもあへず終に空しくなりぬ 行年三十八
法師前と打ち寄りお岡の忠小渡して今王丸抱き
奉を見るより三人ともに湯殿の口にて斬伏せより政清八
夫ともあれ忠家がこゝろ
所にこそ妻戸の陰に沈没ける景政遁さじと一刀に清搔斬
て討伏ける 行年三十六義朋と同年之最
政の始末に法度られど著す 玄光も既に殺の討手ともひしと
少てこは政清が面なりんと走せ寄に政清もや
討とねら少てきたい若田とそ
孔揩小て数多れ敵と斬て出
又子丸見えざれバさて八法師前と抱き上給へんと返弘んとの
とて厳よ入〳〵馬二疋と引おし
と呼りそうらふも差矢も
とうりう玄光も大音小我今古十三ヶ軍小命ふこと十
度いまだ一度も敵小後を見せず
ろのとに留まりね今王丸八郎へど上るまて政清が妻
かゝる夫の横死と少う走来り屍と抱きて大小悲歎し又の不
道と恨つゝ終小夫の刀と乳下にて自害せり 法度美目ある
見ごとも著に かくて

義朝薨後の圖

大日本史
鎌田政家妻平氏長田
莊司忠致女也平治元
年源義朝兵敗將走下
關東路於尾張野間
投忠致家忠致戕義
朝併殺政家妻圍燬
至其死處哀慕悲慟
遂伏政家及而死

同藏





其二

長田父子ハ池小源次ヶ頂首を洗り免（今南ヶ丸門ヶ前に血池ヶ窪ヶ有ヶ此池天下に無双ヶ名水ヶ有ヶ）血よ袋ぶくゝ又傍に下馬橋と云ふ有ヶ義朝の屍ヲと葬まつりし時ゝ下馬ゝる橋ヶ名ゝべし）是を於ゝ上洛ゝ六波羅の勅賞ともむ而に清盛の表叔斜ゝらぶゝ重盛ヶ不義を悪んゞ重賞を加へんとせしを辞ゝ受ゝ長田桑に相遠ゝ一村諸越ゝ賜ゝもらゝゝ是ゝ天理ヶ遠へゝ先非を悔い義ハ勿ゝ有ゝ悲道の父子ゝまでゝ天理ヶ遠へゝ先非を悔い義ハ勿ゝ有ゝ悲道の父子ゝまでゝ年月を送ゝるゝ其ゝ武威日を逐い到ゝゝ義朝公ゝ討ゝれゝ後ゝ満金へ帰ゝ已ゞ罪科を許へゝ給ゝれゝバ勿ゝ論ゝ一村ゝ諸越ゝ賜ゝもらゝゝ是

義朝公尊霊供養の図

東鑑
文治六年十月廿五日丙午
以尾張國御家人須細治
部大夫為基為棄内者到
于當國野間庄拜故左
典厩廟堂（尊治有事奉
給此墳墓被掩荊棘不
拂薜蘿欤之由日来者
於関東遙令遣懐給之
處佛閣排雁荘嚴之
粧遊服僧衆講座轉
経之聲満耳也一品
怪之為鮮鼓水被尋盤觴
之處前廷尉康頼入道寺
于國之時令寄附於水田三
十町以降建立一伽藍奉
祈三善提云云



子実ハ既ニ奥田氏ヨリ承ハリ置ケレドモ今ニ至リテ其ノ事ヲ果サヾルハ不敏ノ罪ナリトテ其ノ子ニ命ジテ之ヲ果サシメタリ

平判官康頼墓

山門ノ西ニアリ法兼元年俊寛法師丹波少将成経等ト平氏ヲ討タントシテ露レ鬼界ヶ島ニ流サレシ其途中ヨリ髪ヲキリ名ヲ性照ト改メ彼ノ地ニ留ルコト三年ニシテ赦免ニ逢ヒ帰洛ノ後東山ノ双林寺ニ室ヲ開キテ宝物集ヲ著ハセリ又阿波国ノ住民ヲ召シテ一寺ヲ建テ住セシメ自ラ其ノ開山トナリ一来ト号シ遂ニ寂ス（水田三十町ヲ寄附シ石碑ヲ建テ一来寺ト号ス）

尼慈

義納慈ノ妻ニシテ平治ノ乱ニ義朝ノ愛妾常盤ノ為メニ捕ヘラレ平清盛ノ前ニ引出サレシ時ニ義朝ノ末子ナル今若丸ト乳母ノ子ナル龍王丸トヲ膝下ニ抱キ居タリシガ清盛ノ命ニヨリ今若丸ヲ奪ヒ去リ龍王丸ヲ捨テ去ラントスルヲ見テ泣キ悲ムノ状ヲ画ケリ

池禅尼墓

義朝ノ嫡母池禅尼慈愛深ク継子ノ義朝ヲ養育シ平治ノ乱ニ義朝ヲ討チ其ノ子ナル鎌倉ノ亡息左馬頭悪源太義平ヲ斬ラントスルヲ聞キ一命ニ代ヘテ終ニ之ヲ流ノ罪ニ止メ又義朝ノ嫡男ナル頼朝ヲ伊豆ニ流シ其ノ後ニ至リテ頼朝ノ挙兵ニ逢ヒ平氏ノ滅亡ヲ見ルニ及ビ其ノ子ナル頼盛ヲシテ頼朝ニ謝セシメ頼朝ヨリ頼盛ニ与ヘタル書ニ曰ク子ハ出家入道シテ父祖ノ菩提ヲ弔ヒ此ノ像ヲ

大坊

大御堂寺一山中六院ノ巨擘ニシテ本堂ノ内ニアル阿弥陀如来ハ教雲聖人ノ彫刻ニシテ水也家代々ノ守本ナリ又山号ハ青山ト称シ中興ノ法師ハ大坂文之ノ陣ニ軍功アリシ神君ヨリ感状ヲ賜ハリシ者ニシテ元和元年中ニ寂セリ

小鳥の泉

境内ニアリ昔シ小鳥ノ渇ヲ癒シテ有名ナリ

波除庵

境内ニアリ昔シ波ヲ除ケシ法師ノ住セシ庵ノ跡ト伝フ

長田ハ水也氏の人ニ

計君ノ住ミ給ヒシ所ナリ

霊寶

故左典厩太刀一振

頼朝公像

長田忠宗弑義朝ノ幡

大御堂寺

其一

義朝墓
信孝墓
正清墓
池禪尼墓
康頼墓



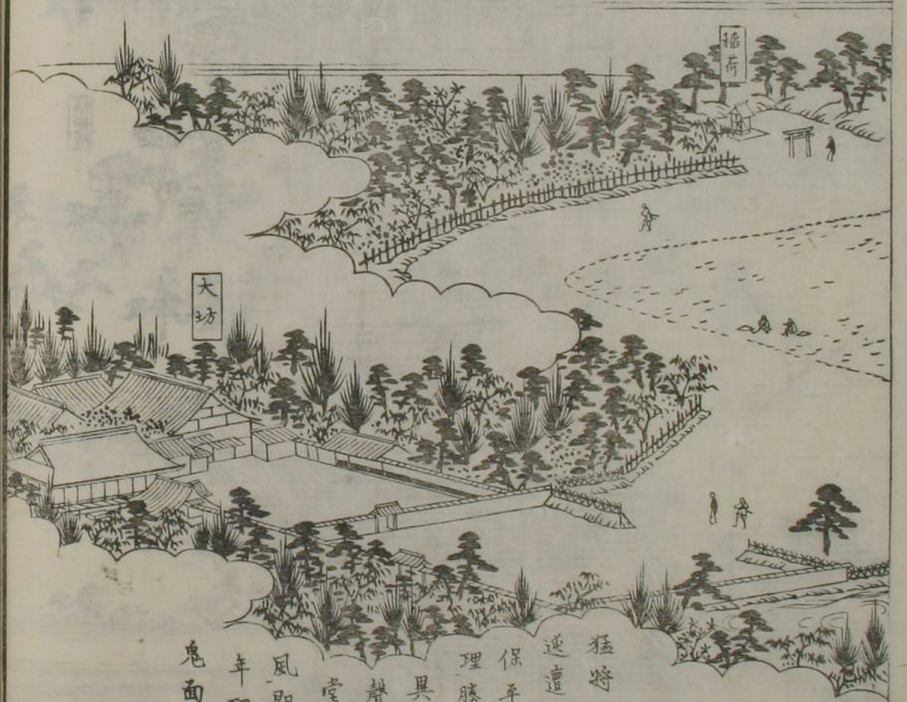


其二

新川

日本名勝詩選

来游獨作昔時看　碧血池頭尚未乾　何料伏兵終迫浴　唯聞賣主横求官　江門日落潮痕遠　野寺秋深木葉寒　父老相逢說遺事　空叙客子起悲酸



常春

猛將餘謀尚在東　遠遺當日奈英雄　保平之際無倫理　勝敗何須問異同　張海潮聲未怒韜　御壁秋樹感悲風　即今遺澤千年醜　作作無腸鬼面裏

圖及大御堂供養式圖二幅

国祖君狩野守信に命して画らしめられ　神君陽濠の織あとひく表具一旦

義弘最後の修仕りて右大将平朝臣浄岸大禅定門神儀と公のみふれ給ひて生害あり未期小一首と添一巻　むらうらまとうみのゆるうれば

血池の深紙

仕昔池水血小深　安養院　織田三七信孝の位牌あり

張らひとまそや明家筑前守より奉りて血れ身一一軸あり　真黄に日夜窓和夢到西湖月下見花思老逋忽有鐘声来呼醒　挙頭半幅墨梅図　樵嵓題賛祝永瑾題云

圓明院

鑓田政清が位牌あり

密藏院　龍松院　慈雲院

已上六坊あり

墨萃

惺窩

山法山寺

大集

大御堂中持善寺曾聞信孝避雛来寫懐歌詠思猶雅辞別封書情欲摧自割肝腸三尺双獨留骸骨一堆灰行人今日問遺迹竹雨松風声帯哀

荘濤拍岸晝冥々知是将軍怒未停洗元池水依然在潜血時飛陰火青

長田庄司宅址

大御堂寺と法山寺の召寺同村の支村田上村ふるう畑ありて宅地の旧姿と存ずる

大御堂寺に属する行基菩薩の草創にて本尊夢想の薬師如来大御堂寺に移る建久二年三月十一日頼朝公の参詣ありふけ郭公ノ聞も侘る島の地名ありうくつ

本尊

薬師如来尾州知多郡田上荘之事云々文中の鉤り峠相摸

浴室の古蹟

法山寺薬師堂の後ふるう大御堂寺の乗下に洋こ今古松樹ありて傍の湯殿あるよう言れと

遠く好事家の
探索に依りす
杉風の俳友の話して

乳室山報恩寺

南奥田村小字
祥応の創建なり曹洞宗東福寺末寺なり本尊釈迦牟尼仏
石碑今も尚ほ存せり永正十二年雲岡報恩寺と見えたれども今は字に改称せり
古くは乳母堂と称せしと云ふ

金王丸疊洗池

北奥田村の旧来の伝にありて武文橋にて傍
そも四面沢と称せり小池なり尚今もこれを
又に侵す者ありまた忽癘と称むして里民大小恐怖をなすこと今も九月十四日
もなり是又談
なり

長田蠅

村の怨魂化して蠅となれりと里人もてはやせども蠅譜にいまだ
揚りて称あるもなれど天も田が疎遠と疾く人口となりて後世にも悪名を伝へ
あるんやうべし
ばくしむべし

蒋をなめさせ

野間天神社

上中村小字本國帳に従三位野間天神と記せる之天孫本紀
森林繁茂陶として
頗る大社なり

大庭

廣石天神社

廣田村小字俗に廻せ権現と称す本國帳に従三位廣石天神と記せる又式内に毘沙門堂ありと古伝伽藍ありて一乗山廣目寺と称し
尚社の神宮もありしと云ふに
慶長年中にも伽藍廃せしとぞ

大谷洞

大谷村小字海岸崩れて旧
隈鷹小櫻角れし碁石に似ること
以ての名ありて古老の伝説と
上の山へかけて寺跡と
なし水流を溜水溝と
なし
なし

御嶽山高讃寺

西河内村にあり天台宗地田密蔵院末

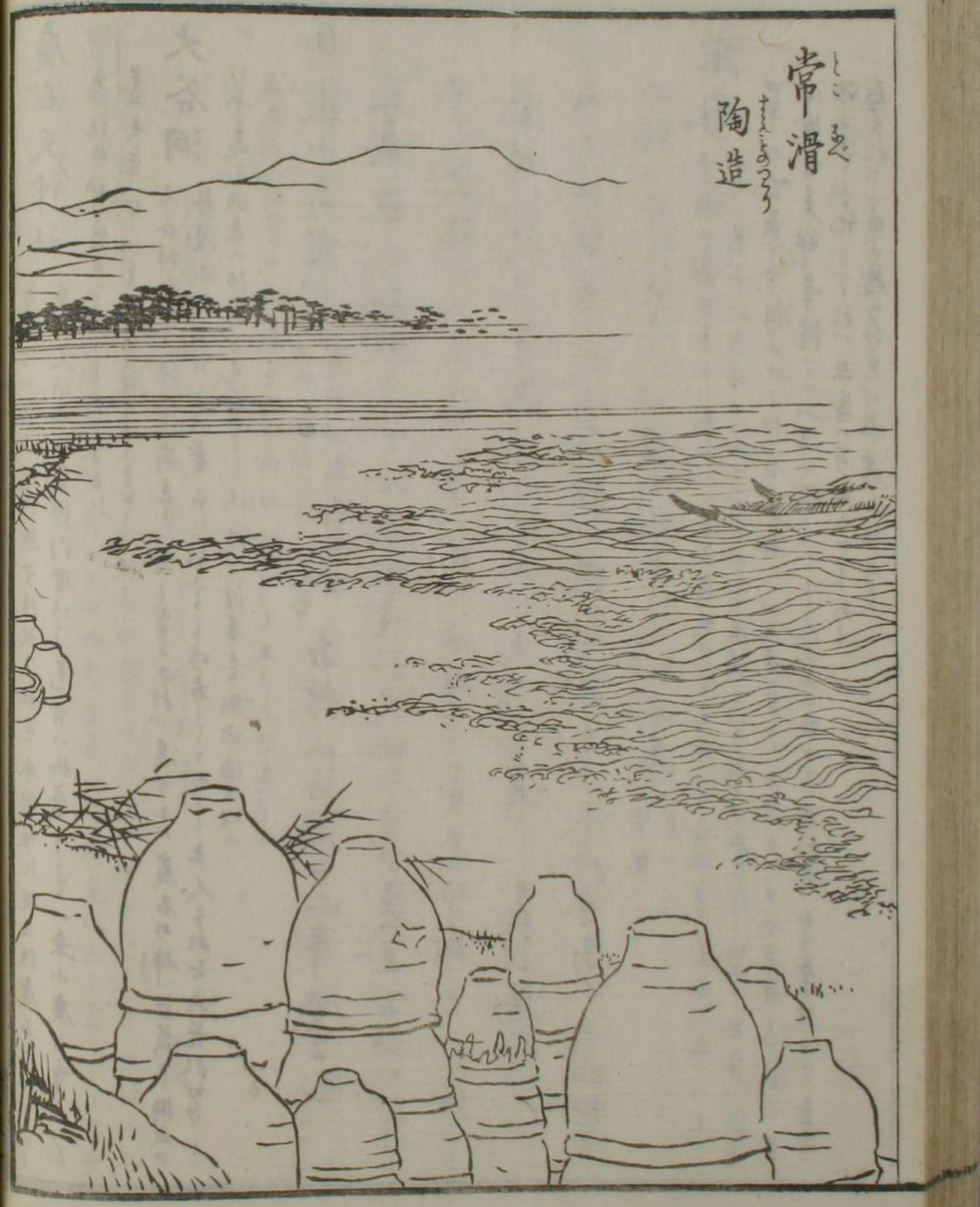
お佛ノ白鳳十二年の草創

天武帝の勅願にして七堂伽藍ありしと文禄の兵火にかかりて悉く灰燼に
長祐と云ふ僧再興して堂及び大門を建てこれ八院ありしが
又も兵燹に焼失して南北坊一院のみ残れり今此寺も古の伽藍
の跡は今も大きく旧姿を存せり○本尊 聖観音

床島

宗頼の孫隆茂より南北に入る又宗祇の方角抄ふ内海をへだてて西に近くある
もう先今此方法をいふ云々されども床島といふ所にて孝清と書き古歌永正
四年の宗長が宇津山記ふ伊勢参宮の紀行に一日連歌ありて尾
法国智多郎寺清と云ふ法ふ伝ふるに七月十七日に大湊まで着て尾
伝ふるに云々これば床島ハ方角ふ西ふ近くて孝清まで急ぎ
渡りしと見えたれども渡りしと見えたれども宗牧が東国紀行にも孝清まで急ぎ
伝ふるともある



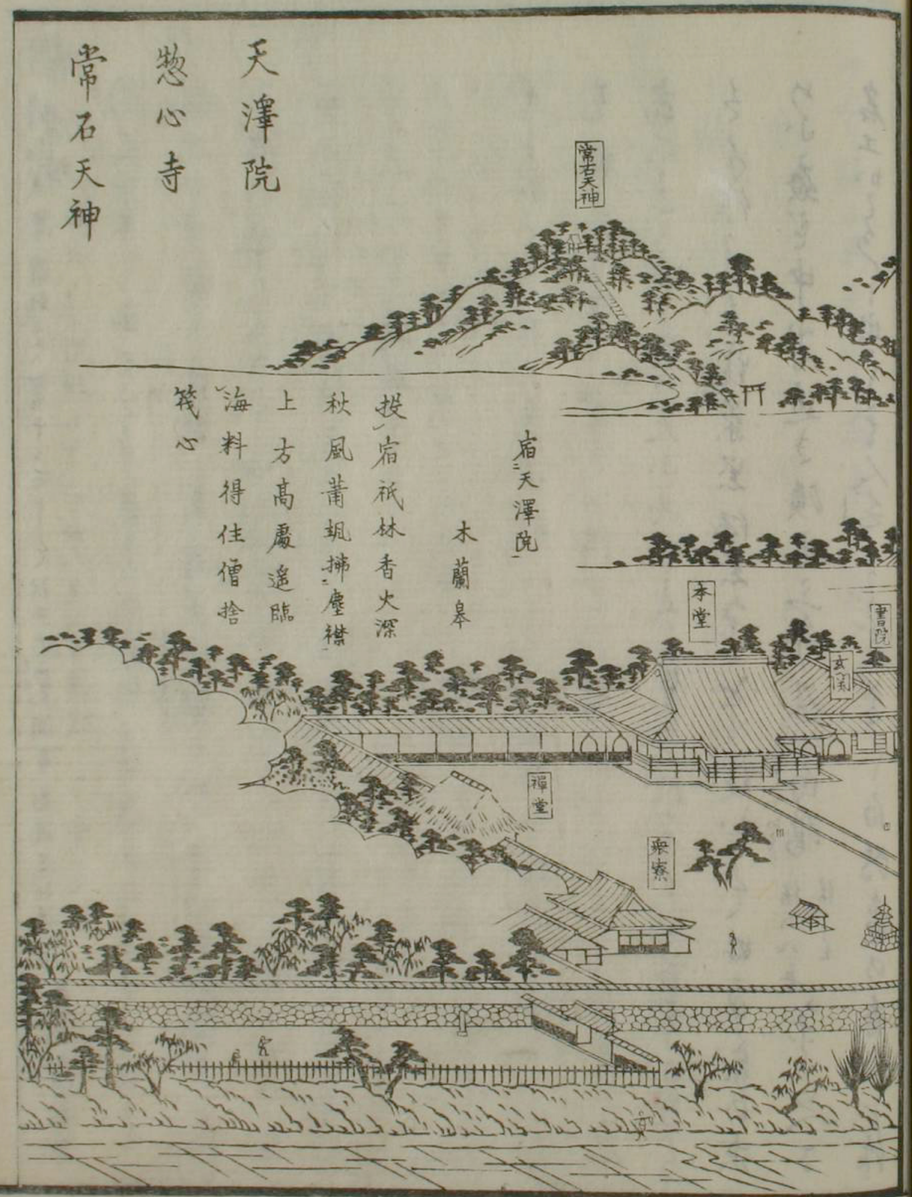


常滑
とこなめ
陶造
すえものつくり

天澤院

惣心寺

常石天神


常石天神
天澤院
木蘭皐
投庵祇林香火深
秋風蕭蜩揮塵襟
上方高處逸臨
海料得住僧捨
筏心
孝堂
書院
女寮
禪堂
庫裏


總心寺
山門
鐘楼

常滑焼 孝清村にて製する所の陶器の称なり按ずるに世人皆な孝清焼と云ふ

陶器と多く出でそれ延喜式朝野羣載に見えてより朝廷へ貢献し当村は即陶器を製する地にて瀬戸および当国春日井郡瀬戸村にて作る所の陶器上品にして天下に普く流通し焼物も亦多くは瀬戸焼と称すべし（瀬戸焼は陶土の称にて孝清焼にも古くは当所より瀬戸へ送りて焼しと云ふ）今も此の山中を掘れば古陶器と称するもの多く見ゆ昔焼しもの地中に埋まれ全きものも稀なるゆえ珍重して世俗珠玉のごとく称し百年を経たる甕の数うるに暇あらず大小共に大抵陶器なれども焼おくれば自ら象の求めに応じ及び白鴎（俗称八兵衛焼）などと名工かくれ出でて人之を賞愛し白鴎亀の香合と作るて綾小路大納言有長卿へ献ぜしに

老が活よする夜の浦人はつくるる亀乃年も経ぬし

と詠して賜いぬ実に此白鴎は近世の名工なり

万年山總心寺 孝清村にあり曹洞宗法系方懸郡洞村周成寺末 **元和元年花影總心禅尼**（禅尼は水を下せしの女則水を堂ありの後室なり）**の創建**

寺伝は 国祖君清公又後園北山に西國三十三の霊場を移して記念を安置せり ○ **本尊** 釈迦の木像 **霊宝** 神君清公より賜はれる宋板の唐書倭漢の書簡 弘法大師作の地蔵尊木像

寶壺山天澤院 同村にあり曹洞宗 緒川村乾坤院末 **当国周防和尚にて創建の年月詳ならず** ○ **本尊** 釈迦 十一面観音

常滑城址 同村にあり水を堂ありて直盛の居城にて俗に孝清殿と称す今は田圃となる宋板の東國紀行小孝清まで二里余り往還にやて水野忠あり後ありてそこに孝清長手託ふ常清水あり

竜松山正住院 北条村にあり浄土宗 **成岩村孝楽寺末** **近住年中空誉上人の開**

正住院

過正住院題龍燈松

深田明峯

聞說有高僧
龍神夜獻燈
門前松尚在
懸得月初昇





前住 宣阿

基うて則常樂ちう寺ちへ隱居退任あるゝ比人道徒
うく託神も是を考ふいて甚須夜あく門前の松小枝焼と欲せ
しまで取小今も生松と雖一枝松の山ちも哀小起る
とふ又天正十年　神君都ち浄土向の長成岩村常樂寺へ
成らせらるべきとてまづ当村（昔着岸行ちせらるゝ小当ちり昔
案内中とて〇本尊（行基菩薩の座像
て四十八幅　文政年中
名号の内之　一切經藏　の建立也　当寺書院ち海面と眺む風景
実小絶倫之

常石天神社　栗栖村小あり俗小
祭主の社と称す　本國帳小従三位常名天神とある是
也（云昔社地千代峯　今の社の北小あるゝ明應年中今ハ地小移り
る宮山と号ス又常清の社小神祠三基あり中宮ハ日村大
善寺ハ法吉（西宮ハ小栗村小あり）る宮ハ則当社之又法座
の旧地を俗の年紀ホに来歴（伝由多けれども今是を畧と

八幡社　多屋村にあり社地三箇山と称す保安四年癸卯三月と建つぴり（此山の糸に
清泉ありて栗井清水と称す（西月十八日の神饌調進にも水と用ひ
（うねど今ハ

田圃と（うねり）

鬼ケ崎　（おにがさき）板戸村にありて西南ハ海中へ張出たるハ眺を歩開きて風景を
（又海湾に小松多く（うねり）て松の緑り小蒼海の白波歩よもう奇観
実に言語
小絶（うる）

祥光山龍雲寺　円村にあり臨済宗美濃苔見清水寺末近宝四年竹腰山
城守春日井郡外原村の廃寺とうつして建立ぜり

本尊　釈迦の座像　寺宝　金屏風　竹腰家の旁附うるぐ
庭の池に臨うて石仏（〇童雲寺殿七十二候の画　竜の額　同家の旁附うるぐ
居士礼位牌　ありゆえに寺号ス　画説時く掛おく　呑海
印月江荷葉池　彩虹橋　一覧峯　門
金剛泉　遠帰帆　已上の八ツとりて
美御天神社　宮山村小あり今天満宮　神護松
従三位三御天神と（うる）ことうり

鍬山天神社　宮山村にあり本國帳に
鍬山天神と（うる）ら比（うる）

鑄物司　久米村にあり代く陶あと業（も天福元年十月晦日所の宣旨とも
おす　近衛院御守添三位教政卿と射芳（時彼清エホ命じて金燈
籠と造らしめ所庭の木に懸けく鵜の落る江を（うることを好らればよりく褒美
小託（うる）ことを依て彼家に於すおれどもまたしかうることあらず
伊勢　贄田　八剣　鳥や　多度　八幡　天王　添大夫
北糟屋村にあり　伊
樂屋天神社　と多る故に八所特記と称す本國帳に正四位樂屋天神と（うる）

見心宗正三年壬午大筆跡ヲ
一巻岳部少輔某重修ヒリ　神室　大般若經一部　兼久年中ヨリノ所蔵ニ
ト正和年中佰貫篇及ビ菱糸　て年久ケレバ裏触セ
景光ノ書ト補修ヒリ
小倉海苔（おぐらのり）　小倉村ニテ製ス昔ハ他邑ニテ製スルニ拠ルバ当村ニ製スルヲ以テ小倉
ト減ゼズ味モ亦他邑ニテ
海苔ニテ最上
ノ名品ニシテ

小倉天神社　同村ニアリ俗ニ三狐神ト称ス本國帳ニ従三位小倉天神ト
但一大地村ニ半山ノ神社ト小倉天神
半山ノ神社ト大地村小倉村ノ本居ニアリシカレバ
ト称スルハ宜シカラズ

小倉山蓮臺寺　同村ニアリ時宗洛陽四条道場金蓮寺末開山ハ覚阿上人ニテ
正和三年甲寅一色道秀ノ創建ヒリ紹巴ガ富士見道記ニ小倉
道場ニテ　又小入ヒリヤ夕汐風ヒレ朝涼シ　トアルハ此寺ニテノ発句ヒリ古ハ当邑ニテ
塔頭十七坊アリシヲ後ニ皆ト廃寺ニ一坊ヲ存ス慶長五年九鬼氏当郡ヲ侵掠セ
ヒリ夫ヒリ寺院大小皆廃ニテヒリ又織田有楽氏郡ヲ領スルニ及ビ
附其火ニカカリテ記録什物
等マデ悉ク焼失ヒリ

寿山塚　当寺門ヲ入ルヒリ俗ニ法名齢年
寿山トイヒシ尼ノ墓ニシテ尼ハ俗氏ハアラ
ヒリ当郡ニ住セシガ同氏ノ人丹波
ヒリ来ルニ及ビ近ニシテ六万石領ヒリ当郡ヲ領スルニ及ビ
大地及ビ宮山ニ住セシ則齊年寿山ニシテ
天正ノ兵乱ニ討死ス信方ノ妹ハ当山ニ
年京都ノ東国紀行ニ所多郎大地ニ宿ス
応今ニ至マデ

福聚山海音寺　大地村ニアリ浦嶼宗　本尊　阿弥陀ノ立像　左右観音勢至
京都妙心寺末　開山ハ覚阿上人ニテ

前ニ来迎石ト称シテ天然ノ立石アリ彼ノ仏ニ菜ヲ供ヘルヲ以テ菜ヲ
立セ置テ法中ヒリ出現ヒリトテ又当ヒリ瘡毒ヲ療ス菜ヲ
出ヲ是則菜ヲ供ヘル夢想ヨリ名方ヒリ世ニ此ヲ菜ヲ
渓菜ヲトイフ元ヲ灵薬ノ著キヒリ挙テ数ヘガタシ委シクハ板行
ヲレ縁起ニ詳ニシテ茲ニ略ス○　塔頭　廣修菴　鎮海菴
台雲院ノ三宇アリ　書院ノ庭前ニ
薙鉄歩ニシテ巨大ノ
薙決松イヒヒリ　櫻ホヒリ　ヲ上ニ
万松山齊年寺　同村ニアリ曹洞宗横須賀村長泉寺末ニシテ俗称ヲ佐治城ヲ佐治氏ノ
負ヲレ住　本尊　釈迦ノ　座像　天文元年ヲレ創建華雲和尚ヲ以開山トス
牌アリ　ノ等シキ罕世ノ奇品ヒリ　寺宝　二祖立雪ノ図一幅　依治上野介天文元年ノ
実ニ大悟ノ名画ヒリ　塔頭　覚翁軒　少林齋　一陽軒
直芳軒ノ四坊アリ

巖松山東龍寺来迎院　同村ニアリ浄土宗三州崇福寺末　往昔ハ天台宗ノ道場ニテ


海音寺
朝暮泊場所
東龍寺
中坊
本堂


東龍寺
齊年寺
海音寺
潮湯浴場
遊齊年寺呈默底上人
松平已山
趙州茶味直通關古鳥松風夏日閑一院無塵非拂拭老僧曾裡有青山
齊年寺

徃へ[ゆ]ふ慈晃大師行脚(あんぎや)廿日こゝに草菴を結(むす)びしが[ひ]ろしう荒廃せ
を應永三十一甲辰年[きのえたつ]備東岩惠全再興し今此宗に改む永禄年
中信長公四十貫文の田地を寄附ありしが又剩札(しやうさつ)も賜(たまは)り相完秀
公を我ら開(ひら)き神祖泉州堺(さかい)ふまし〳〵しが徹行して勢州を
徘徊村小[こ]ろもい寺に三日まで仲淹留(ちうりう)わりせらるゝ小祓信
長公制札を下覧(からん)あそばされ住持(ぢうぢ)救珍(きうちん)及バせらるゝ由委(くわし)
七年壬寅六月神祖[しんそ]薨後府(こうふ)おりしまし〳〵時寄(よせ)て往(ゆき)洞山小
旧事を問(とひ)玉ふ小洞山御答に信長公寄附の田地ハ秀吉公没収
せらるゝ由上る是小[これ]ひしく今も歴然(ありあり)○本尊 阿弥陀佛(あみだぶつ)ハ春日の作像(さくぞう)起(おこ)ふ云(いふ)ふ阿弥
陀仏ハ叡山横川の楞厳院(りやうごんいん)ふまし〳〵(ママ)
明應四年の秋の末或夜院主ふ告て曰く我此地にありて台徒を利(り)すること年久しくし
いつとも往生(わうじやう)ハ[は]ふ今(いま)より後(のち)ハ[は]ふ鄽(てん)僧の成仏を化益(けやく)せん我を東の方
小送るべしと院主ふ告(つげ)さらく後(のち)ハ[は]ふ行(ゆく)ふ示現(じげん)ふハ[は]ふ
とうとふ我をなをけん[なをけん]と又の[ふ]告(つげ)ふ[を]ふ山ふ[を]も[ふ]ふ山ふ[を]も[ふ]ふ東(ひがし)ふ[を]ふ
む院主も今ハ[は]せひらくて曲(まが)りけれども[ども]ふ[を]ふ[を]ふ[を

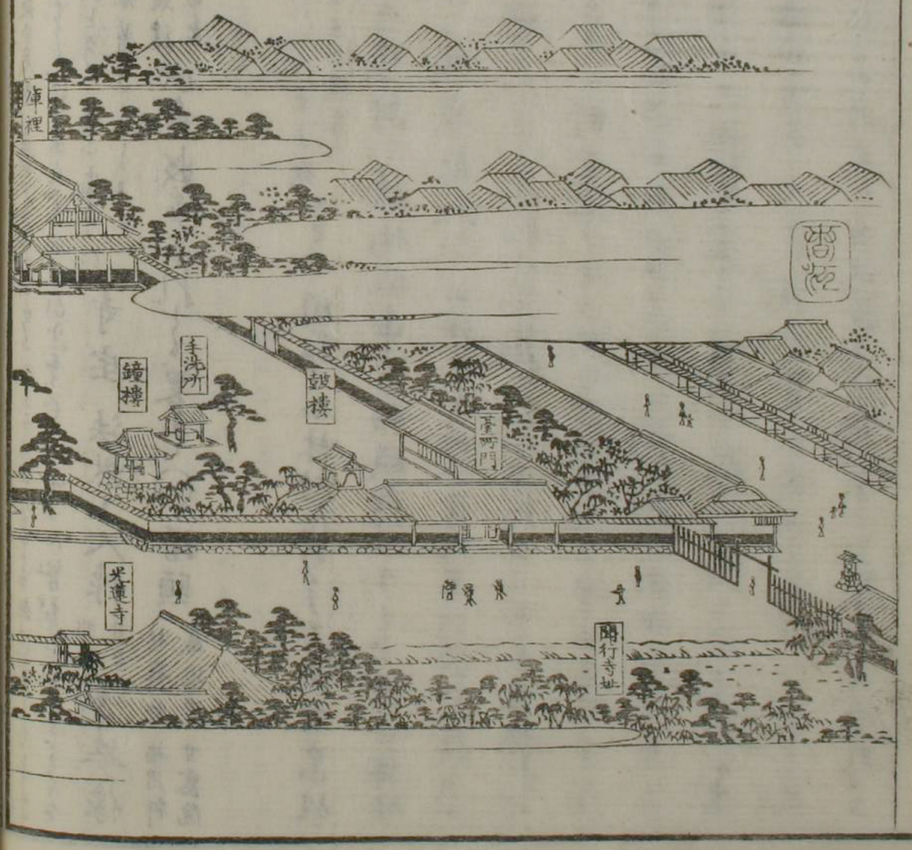
光明寺

深田正室

小林山上光明寺相
遇閻僧問往年佛性
上人垂跡後至今堂
宇正魏然

謹

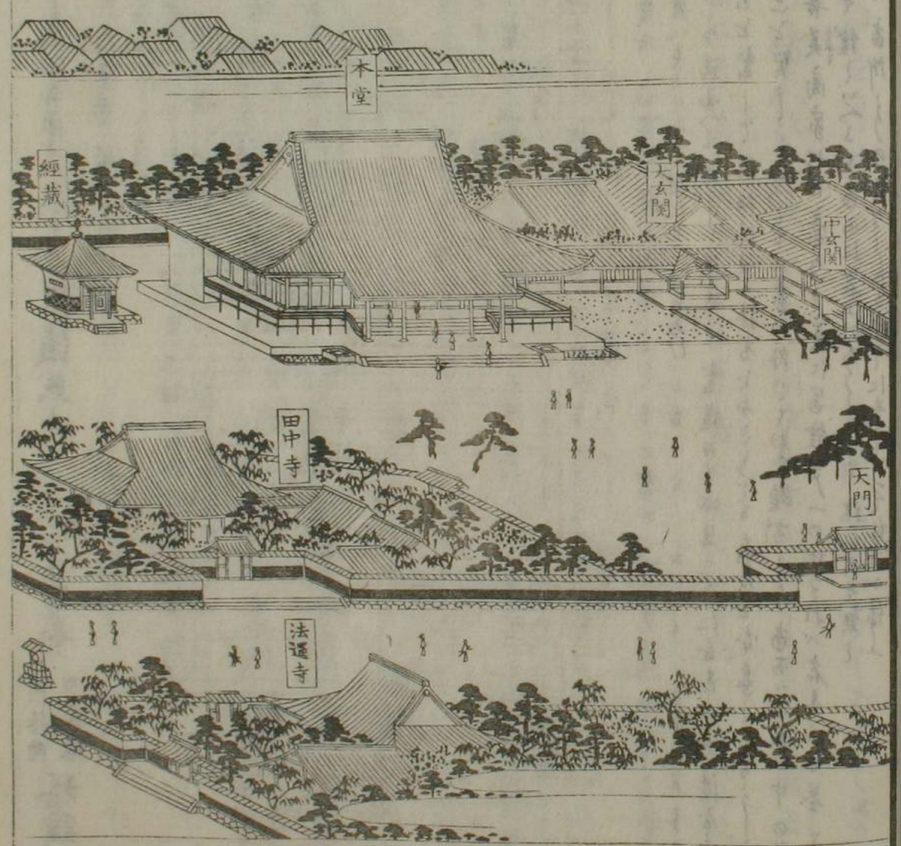
さゝるもの
ほゝろ佛に
手向くを



當く代も
かゝやきに
け

賣春園

緑起ふも
朽ぬいとお
かきつゝ
さゝ生ふれ
あふし
めさ



其後再営して堂宇ハ今と却倭然たり○本尊 阿弥陀の立像 塔頭も古坊ありしが今ハ光蓮寺 聞行寺 法通寺 田中寺の四宇と存す

内宮社 同村の海渓ふかき入江の奥に在 天照皇太神宮ハ古蒼松繁茂して清陰万頃波浪千里風景ともよく又夏月納涼の勝地といふべし

牟山戸權現社 同村三次賀町のほとりにあり **本社** 糸井新宮 大明神 **西社** 那智事解男 稲荷保食神 大香山戸臣命 速玉男 春日 近世 勅許を受く正一位の神階を奉進ス **牟山の社** ハ伊勢の末社相鹿牟山の社と勧請せしとぞ **孫** ○祠官 後藤氏

牡蠣 同村の海中より捕る余他産ニ比ス形状風味共に甚美しと雖も尚名産の数に入らず

保命酒 同村少て製すれども甚美味にて長命を保つべし元を尚郷ふかき池田伊丹ふ等一廷式に按法れ池田伊丹ふ等一廷式に伊勢太神宮月次祭ふかに神酒を尾張より奉ることなれバ尚ふ酒の古きもの多く諸ふに運漕するの

一口香 同村三次賀町 毎年久き諸の家ごとに製造して其味ハ格別にて三都 をはじめ諸国へ運送して繁昌す 式時 国君へ奉りしふ賜ハりしと云ふ名を追に方々も等しく見と製して尚格風味ハ猶劣るとも比屋習ひて一口香と製するとぞ二家の外ハも製頗劣れども尚而ハ一郡中の称美うて街衢の善美高家れ巨豪ふ至る迄一口香と銘せしもの多し又世に大也鐘しるも尚而に名工ありしも恐らくハ尚所もの名ふんかし今ハ尚所の名工ありしも亦絶に大也無しと云ふ

塩湯治 同村海音寺西北の方に尚る海渓ハ巌石多くありて暑氣の況ひ至近の諸人ハ海渓ふおもむき激水ふ浴ハしてハ又巌上に憩ひうて終日に数度も出没をもて浴と号と世に大也れ塩湯治ふかく暑月ハ浴湯ふる摯集夥しくて数多の旅亭家ごとに二百人三百人と客一他の温泉とかくまで諸人の輻湊ふる少ど又中人以上ハ旅館ふハ海潮を汲とせ更ひ湯しく浴ふるも尚ふ少しく劣ふるぞ又浴湯の暇ふハ海中ふて捕る余の鮮魚と俗まで尚含しく枯腸を潤ふも又治療の一助ふる事ハ東浦を尚而ハ尚ふ譲ふ至ふハ推て知るべし是則海音寺茶汁の来の夢想ふらずまりしぞ

（本編拾遺集 湯治とありて載せにくし）

多月れ井 乾きてあれども汲来てさら塩ふうして湯ハ浴解ふるまでふく名多れ浦のうか


潮湯治


桂洲
漕ふの
汐ふえぬ
時さる
汲古
夜ハ来乃
うそぶきつまや
汲沖洛

日永崎 表村にあり西の方海中に出く松樹茂生う処を日永ヶ浦と称ふ又川あり日永川と云ふ景色の山中なり然田の流れ日永の潭となる江文明神の境内に流入る

日永神社 同村にあり祭神 日本武尊 倉稲魂命 社伝に 日本武尊東征の時此地に来り給ひ江文神と現じ給ふ 傳へいふ 日本武尊此地に来り給ひ所の名及び日の暮暮と問ひ給ひ小里民畏て日永と申せしと仰せられしより茲に日永の名を得たりと云ふ

日永の一里塚 ○**揖社** 神明祠 風宮祠 八幡祠 八衢祠 天神祠 以上五祠あり **例祭** 五月

白花山慈雲寺 景田村にあり 浄土宗 京都妙心寺末 永禄二年己卯年 春窓國師の創建なり 檀主一色修理大夫範光 慶長二年丁酉正月廿五日

古見の一本松 古見村より山上にあり古見の一本松と称して舟路の標的となり

皇后井 平井村小竹井村にあり 神功皇后の社あり 此山上に清水常に湧き涸ず 神功皇后の社あり 旱魃にも涸ず

薬王山法海寺花王院 同村にあり天台宗 景田村末寺

皇沖悩まし給ふ時 勅詔ありて 人皇三十九代 天智天明神へ祈誓せしに小野神童男と現じ自ら法海童子と称し一夜の内に一木にて仏像と共に光明を放ちうせぬ 天智七年戊辰春日の霊像と本尊と別 勅願として又山階清水寺よりして又山階清水寺よりして改めて寺宝の一つ 勅使として山号寺号を創し給ひ彼薬師 勅使として山号寺号を創し給ひ彼薬師 勅使として山号寺号を創し給ひ彼薬師


長浦
日永崎


日永神社
古木の二本松
坂田三多仙
神主







法海寺
大日堂

式山、うつくし
天智天皇の勅願所にて大伽藍
ありしを中古兵乱の災にかゝりて
堂塔悉く焼亡ありて僅に坊舎千
軒のむかしをのこして日夜の鐘も
月にとはり一入閑寂なり

夢梅

夜すがらや
瑠璃の光をに
なくあらし

統の両帝を初として十三代の帝王まで國家法護の勅願
所となる歴然たり而して二世と勤操和尚三世と弘法大師
とす而年伽藍堂塔の盛なるは悉く大師の擬造に係
軌小乗を学ぶ人等挙げて數うべからず○寺宝 大日如来
弘法大師の筆 山越の阿弥陀 恵心僧都の筆 法海寺謡本 信光の筆
涅槃像 土佐光信筆 不動明王 巨勢金岡筆 薬師如来 兆殿司筆 三千佛
宅磨法眼筆 両界曼陀羅 栗田口法眼光国筆 十六善神 弘恩筆 三佛十菩薩
顔輝筆 以外希代の什宝数十種あれども爰に省きぬ○常光
院 文禄二年豪源法印の中興 大乗院 文禄三年豪源法印の中興 吉祥院 慶長元年龍遍法印の中興 三
院皆某王山と通称す○牛若弁慶の繪馬二枚 慶長十八年癸丑
寺本中島村某と佐渡添なるもの 阿津股野角力の繪馬一枚 元和三年丁巳二月
吉祥日と記り
万歳 数村に長福大夫孝福大夫某加木左村に上羽右夫等ありて三河院
内万歳の国流なり抑 人皇八十九代 亀山院の御宇因幡山田那木谷村 某寺
の開山無位國師のおいたち伝其ちに伝えざれども某年の初より家に来て福が事なれば
ぬ國師ことあるよりて本郡の佛法の弘まりしこと頗多郡ちなみ村も高山の旧地なれば古跡也是
自ら頌多と伝えある拠なき勿論なり万歳と伝称せしは世に
て年ふるうち勿多の万策ありて諸國を
見べて五万策ありて唱ふれども五世ありけれども
ども皆其ままに遺しつ

正法院

佐布里村にあり創建の年記詳ならず旧号を雨宝山と称す寺伝に
天台宗なれ村万徳寺ありしより改むと又古き額に明應七年戊午五月十日檀那平朝臣宗宣と
宣ハ何人の事詳ならず或ハ佐布里村の地主ならん 本尊 地蔵菩薩の作 密厳院 浄蓮坊 實相坊

等外三宇ありしことを正法院の一山となす

景清宅址

半月村字今田圓にあり 古伝なり 土人のひ伝ふ 景清此地にありて土人のひ伝ふ又高雄の山上に古松ありて伝にあり
ふ景清此地にありて須彼山に登りて月を見ハ例彼月と村の名をつけしとぞ
音堂あり此寺ハ景清の屋敷跡なりと伝ふ清光波小清光波小清光と称す
せしより古記に見えねど里民の口碑をそのまゝうつして後の考をまつのみ

等外三宇ありしことを正法院の一山となす

八幡社

中浦村にあり此ハ大なる社林あり社地なれば絶えず地とも称すべし

安楽院

薮村にあり 仙養山菩提院と号す天台宗 本尊 大日如来
往古伽藍の遺場なりしが天文年中火災ありて悉く焼亡しぬ
そのまゝ存せしが元亀元年庚午法印豪遍
して今一山三院あり此寺ハ常光院玉泉院と号す

慈雲寺
正法院

過正法院
佐夕清雄

宝苑春深草
樹香満庭點
石自成行鵞
経長誦東風
棄一任擔鈴
語夕陽



過慈雲寺
竺垣道

溪山長繞旧禪
扉金磬秋清水
黄飛雲意趁憐
定僧冷床頭護
作一重衣



万歳

禁中正月五日御鉾始の後清涼殿の南庭にて萬歳樂ハ職人ニて三合に画ると見えバ法師にて素袍烏帽子と着ゝり又室町将軍家の頃ハ万歳ハ大夫扇と打ち三鼓とゝもちて参内し掛まゐ絵にて殿中の上ふあゝーと叫ぶ壺袴をはきてぞ今さに図する南都の万歳も畧これ類ゝり



惣五郎塚

同村にあり昔荒井惣五郎と云る者武人のごとく数きる事をこのむ故に弓捉塚とも云ふ雁を狩らん人ふきれる矢を作りて墓前うづたかくて俗に弓捉塚と云ふ

虫供養

南都西浦十四ヶ村東浦十六ヶ村一年ニ一ヶ村ヅゝ東西は同じ抑ゝ供養の濫觴ハ小鼠を狩るにかゝるとて

ゝ

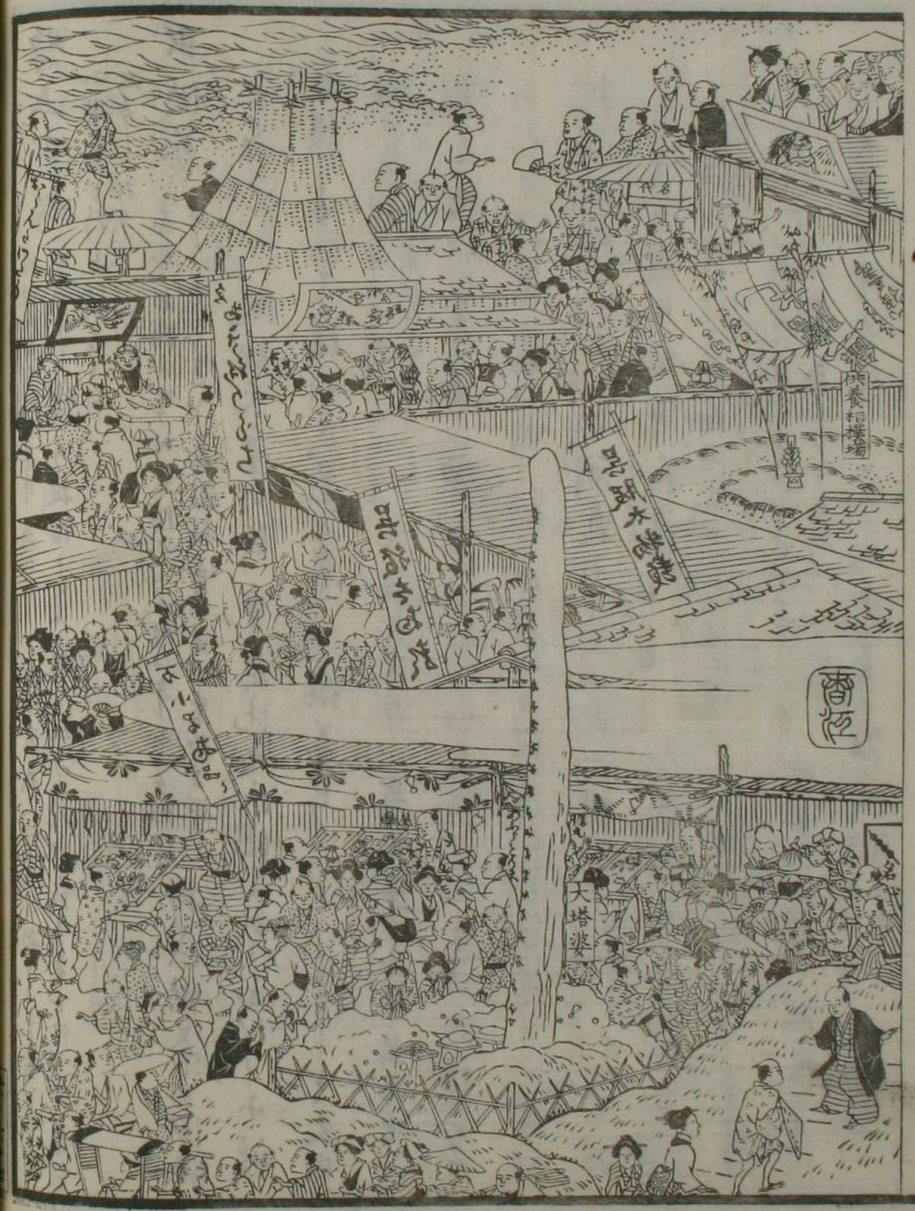
と云ふに

ゝ

ゝ

ゝ


蟲供養
横綱土俵
横綱土俵
大相撲
奉納
早上諸白
三十二番


吸大相撲
大相撲
番附

本号　甲州家れ士法楽左史政歳とし子者ハ　清右衛に仕へしが大坂陣の御太閤
者に法名ありし三号仏と衣を求めしが別れ衣村に名ありぐき別れ衣橋
を考附し供者の語元に今も此本号ハ
別号ありし又政号の頃も教村にありしを
もて落文を記して　此橋ハ衣村の
の橋と名ふ村く

此供者ハ尾南中一の壮観ありて群衆の駭くき図と見てあるべし

横須賀　古名馬走瀬といひて紺色が富士見通記ふまでいる
けるくある里と元禄の頃　国君馬を放ふ湯ありしせ
村存り商家も数町の名軒
をうべていと繁昌の街なり

衣ヶ浦　横須賀村の波をといふ宗祇法師の
又曰衣ヶ浦の称名寺ふる
くいふ刻本ありく此浦の事実と委しく記
繁ればこゝに省きつ都くに村より西南に当る浜辺を衣ヶ浦と称ふ

衣浦寒砧　薩隠
海天秋色純　塵喧幽趣猶添月一痕斯地称衣如有
意寒砧處〻起漁村　勝長幹
同前
風波潋灩浜邑開砧杵遠聞衣浦限晴見天邊十裏
色繋斜照傍雲来　張驤
衣浦晩望
海門渺〻接天涯日暮帰舟隔渚鳴此際風烟無限
好偏令騒客動詩情　岸野久恒
衣浦即事

青鳥翩〻衣浦邊波濤一望与雲連可憐憐依舊風光　法印盛運
美猶似昔時巡狩年　五百年子品のうと　叡真法師
波かくる衣の浦と来くれど　ふくもの寺
あくいもぬ衣の浦ゝ　狂字を院の十首ふまうの内浦よりと
あくるくる　うのようこる歌をきくてふつうもの浦ふ自と
ぬるとて浜を汚士の衣ゝ波ふ凡るめとくきみかの月　後京極摂政
月清集　西行
吹くす衣の浦ふ秋風ふくふも　九条内大臣
波わくふ衣の浦ゝ神貝を汀ふ風のそみおくる　永宝亮長
立渡る雲ゝ衣の浦ようや　栗田知周
浜まるにくあるゝ雲ゝ衣の浦ゝ　専巧
松ふ枝ふ天津乙女のかけくふ浜を
いくくうくる衣ゝ浦ふまるなたらもくる
沖津浪よれふ風ふに志て衣の浦ふまるくなり　一巧
きてくくくふや衣の浦ふまるくの月の
秋実

横須賀

名の浦より望
尾張の横浜賀への
渡口にて天の尾橋
といふ中に名の浦と
よべる江ありて松な
どしに深き海のごと
やうに見ゆる景色の里と侍
ふ
郊君渡口亭とは
松原にもひ上の村
のなまりにてあるも
渡の横浜賀へうつる也
ゆえに文字のめでたきを
あてゝよめり

観福寺
天尾天神
スワ社
女躰明神
玉林寺
琴弾松



晴嵐

峡うらや
下路の雪を
乗り
飛ちどり

ひろきさく衣の浦なれやこの沿れもとゝをし　蘆菴

小雪波の立居も見えぬるく衣打浦の朝うさ　夜長

立ねぬ衣の浦の朝霧あれ神さびわたる実風もふく　美濃

ありさらてひろみ乙女の袖貝ハ衣の浦かおくるうらん　日潤

東せんの深入こゝろ多貝ハ多く衣打うつるも　可童

秋の風を砧やこ衣打浦風にてことゝハ波かぬとてかな　晴山

ふるうみのふるうと見えハもゝ衣の浦のほろひほと　烏川

風さむきやふ衣の浦うれハ多うけかやめてわらん　一木亭

墨やそめ衣のうらみ多　東南

琴弾松

同村の俗称大菱院の境内ふるき松樹あり。昔時琴の名人此松下に日暮を閙し、其声を絶せねハ琴深の称も自ら空しからんに堪ず。松のそひと共ふ永く千載の末とも名を伝ふるのみ。

かそふぬいそしらのくらハ庭の松風もときゝ尽ぬ音を守ら　堀田梅衛

長益塚

平清村ふるし。当益和尚ハ同村宝国寺ハ開山ふして天正文禄中の人ゝとも。より遺徳慕固の知識ふらしふ武州里民和尚の余恵ふるともくめ碑を海に

及んぐ。公許の目安と書しむこと恰も敵討の状の如くに認る者多く刑に行れんとせし一門彼目安を書きしの約書を遺うてなるのごとし。計の者ども十ばかりそれ和尚ふ実の寛恕ふるものを啓せしふるとも生者必滅の理に安心し統に死刑に就しふ不思議ふ小首を刎し何白氏の蓮花彷彿と現ずしふそれふるふ侍を寛恕ふ数多ふれハ彼霊の祟りふんと首を捉して手ハ近々の若民疫病ふかりて死ふるもの数多ふれハ彼霊の祟りふんと首を捉して而に塚を築きふるふ松を植て若宮松と号けさりしふ過年一植まて塚のこ存ぜりとを外血のちばもふ一ふふも夫ふ塚を築き又ひらと悼ふふおふハ慶安三年一里民石碑と建又当所宝国寺に彼像を安置せりふ十一月十七日命日ふれハ例年一此日の墓参ふ絶ずふらずふべて氏塚ふ法両話教を約誓ふるに霊験ふらねハ世人皆を崇敬して絶ふ法の男女参に絶ふらず。

細井平洲

同村の人ふり。先生此ハ紀名ハ徳民字ハ世馨如来山人と号し甚ふ家ふ称す。そこ当村農家ふれ鹿ふらが若年より学に志ありふく府下に於ひ中西淇洲の門ふ入ふ格法ふを修歴しを後に足と止ふて学業大ふ成ふ格白戸ふおふく遂に一家と新し平洲先生と号ふ。是ふ名ふ依ふ法候の礼聘頻りふりと又ふも是に辞せ。其永の末我ふ先生のてきハ実に書錦の栄を擅ふるとふふ一又返き次大所叢書中の千駕言ふ養新餘録に先生のふの一を載せられハ彼ふまても名の世ふえふるもふ一先生の碑と当村玉弁山の建しハ生ふ尽生の地ふるにふれ足碑文ふはよいてにをふふ

如来山

加茂村ふり。李実形容ふる平例先生の記に譲り左ふ主文と載せて別ふ賛せず

如来山記

我尾無山以山名者
里為熱田駅と臨海
之如鵬之翼鳥知多
曰如来山距此十二
里泛葬即至斤歯呀里曰懸村
培壊之雄耳那姑射之南十餘
之東南遷延六十餘里望
郡也其如瘤而青間見赤堆者

細井平洲

多懸嵯故名馬村南有径東向登之可三四十俱即山頂也古昔有神女来遊故名女来云後改為如来蓋浮屠氏之為也坦平方百餘歩有山神祠〻前呀望北有信越飛濃之山加賀白山亦見遠者五六百里近者二三百里而之地東北濱海南流殆二百里而加賀之山層々其背為馬塍吹多度積翠如杖朝間特秀勢之翠涤駛江之山也皆仰而南西北冠峯如冠錫杖百尺金魚鎮覺距此三十里瑩〻射目那姑射城也蒼松翁鬱勢擘壘波之如屋賈舶呀泊曰波曰熱田別館其南檣之如林蓬陰闔勢之桑名也城曰菟汰碧波之中粉堞如帶晴閙俯而北西南一駒共城以南邑里草木明滅無時亦皆里曰大里海中築堤隔海而眺也而左去山足六相公所営以老之處共呀方數百歩茂松森列先君亞堤今也則墟矣次岡田次朝倉尾根次平井次朝倉次古見次岡田次森次大野自倉最可散謂為日永浦次曰西口次自岡田至大野砂行最多屋次林鍋次野間次内海平治中長田忠致賦原典厩處次曰尾浦次諸崎諸崎郡之南陬是謂島尖以上諸村皆治海南走〻六十餘里一瞬而盡尾之島尖志之鳥羽浦南北相對其際十七八里通潮南溟是為海門〻以内古謡呀謂勢之海兮張之纜舟之者南北百三四十里東西五六十里周囲如纖東北雄参遠連来往如織東北雄参遠連大乍小来往如織東北雄参遠連山如黛時見一點白於其間芙蓉峯也鳴乎此山也僅高三十俱而能望十二州者我尾無山於是為妙

矣右轉而下上懸村時讀書之處清浄幽多遊鳥出門左行里下右蜓左谷曰胴阪蜓曰一之懸潮至不可行右自巌上而行蜓前百餘歩如馬脊者曰高座石潮至則没典厩之死也其士金玉跳馬而亡至此馬化成石此其石也

大悲山觀音寺

（同村にあり高谷家府下大頂真福寺末）

本尊　正観音

南方境内ハ海湾の江岸数十俱の上りて絶頂小堂宇を建つ堂より下瞰すれば古樹倚て掩ふ（こもる）凡流雲飛鳥も常に御下にあり幽寂塵垢不至春夏之月都人士りバ数十百里外名山蒼海も一瞬（しゅん）の間に来山ハ此来山と双峯を対ひ下の文人藻客此地に至て登臨の興を発する事多し

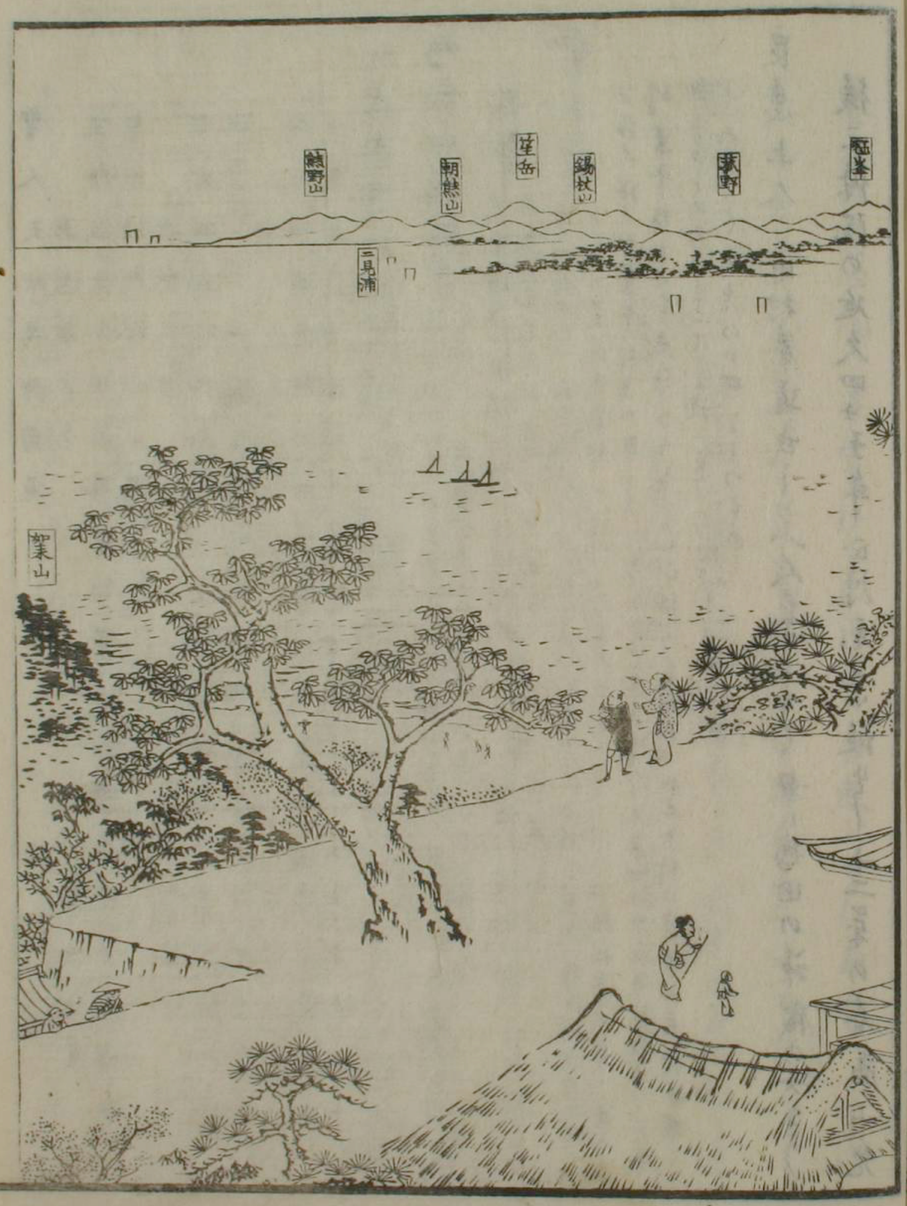
寺詩の中に古題詳を載するを以て茲に略す

登懸崖大悲閣　　編口好古
蒼波千萬里遠樹影浮沈勝地高吞海虚堂聳桀岑将舒黄鶴翼徐抱白雲心倏忽縁方外総無煩惱侵同
大悲樓閣画圖中蒼翠花飄彼岸風隠〻華鯨滄海

加家（うけ）

観音寺


勢田三ヶ橋
夫の河
くれ
まくら
て
雪
かすむ
月
圖暁
来名
勝間山
たばく山
来迎寺
大音川
金城
勢田
高座石


鏡野山
朝熊山
望岳
錫杖山
鉄野
亀峯
三見浦
加来山

響人天捨筏仰圓通　奥田叔建
復訪觀音寺後山懸崖　林梅山
事万噴新畬接水湾　桑田碧海須臾
題觀音寺
世外探禪境清幽夏日　寒纖蘿纏院壁靈籟動波瀾
送客三山雨堂窓七里灘懸帆舟急去出没海雲端　高麗一臣
同
曳杖斜陽裏醉吟最是　漁舟争入浦晩鳥盡帰松
日落衆名海雲暗多度　峯蟹荘火已上時聽梵宮鐘

天尾天神社

本旧村にあり今八幡と称す本國帳に従二位天尾天神とあり是之後人改て両尾と云ふ旧村の氏神寺両尾山と号もるも亦此縁あるにやらしぐ

両尾山觀福寺

旧村にあり天台宗也旧容院未大宝二年壬寅行基井の開基之ものゝ由空海二年庚午法を受山号奥ゟ

本尊

十一面観音ハ行基の作にて又旧邨作の

業平塚

富旧村小字ゟ俗に車返と云ふ清和帝の后藤原高子と姦通して業平朝臣の攫ゝもゝ列業平朝臣のお居神うゐもゝ称もるものあるゟ（て云ふ一生一度ゝ志ゟゝ里老の口碑とうつもの

良忍上人

旧村泰通武ゟ人のゟうにて母ハ熱田の神職の女ゟり後三條院の延久四壬子年正月元日小誕生ゝ十二歳の春叡山兜

辛谷の恵心院の良賀法ゟれ許ゟて台教と学び薙髪して本覚坊良忍と名のらゟ三条東塔の西谷無動寺へ千日詣ゟゟ隈遁の心行といふゟ廿三歳の秋素懐のごゝく大乗の奥ふかく達て　のゟとてもえゟそゆゟさねど世のゟうといふ事ゟ悩ぜゟる事ゟゝ此ふ来迎院と草創ゝ結界法と修せんとせゟゝ泳ぐゟゟ上人の法力いかでう尊ぶべき我ホきけふ鬼魅共ふ詰つゟゝふやうに上人祝ゝ歩ゟゟゟ又或阿含文殊法と修せゟゟゟゟゟバ庭上の大石変じて獅子ゟゟ吼ゝと云ふ又一日駿馬寺の毘沙門天奚人と化ゝ上人ふ来謁ゝ申いて云ふゝ師行ぞ融通念佛と唱へざゟやとゟにおいゝ上人遂に融通念仏と俗俗男女ふ勧誘せゟゟ上ハ空也上人と追いて下ハ源空上人ふ及びて六字称名弘通の功徳未世に誉ゟゟも皆上人の法力ゟゟとゟゝ長兼元年二月朔日行年六十一ゟゝて入寂ゝ申ふ

迫き安永二年十月十六日　勅して聖應大師と謚ふと修りぬ

移委〳〵は元享釈書及び大和名所記

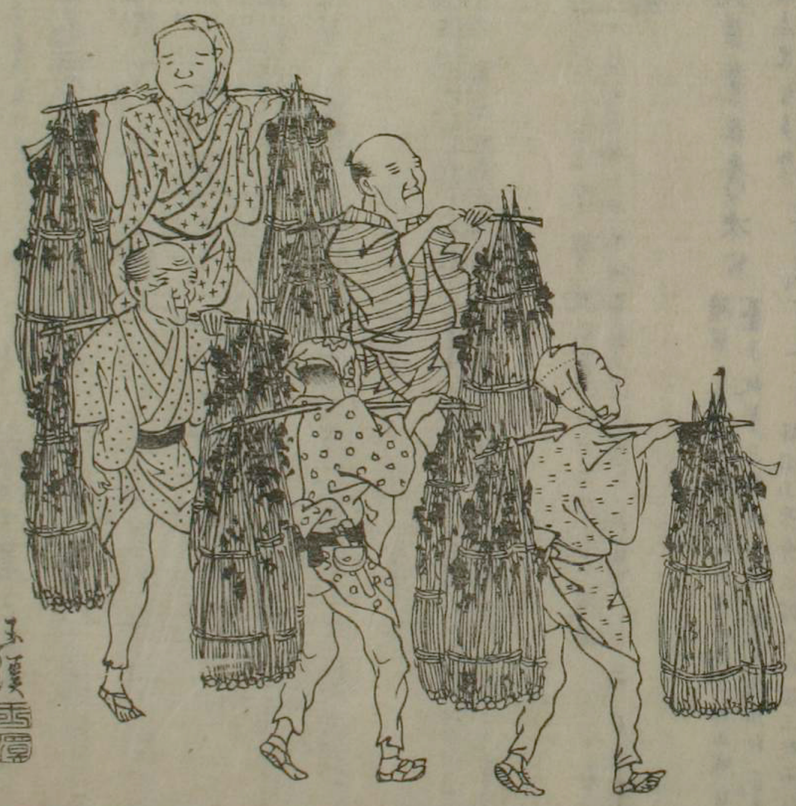
荒太天神社　清水村にあり今四神と称す非　誉田天皇玉依姫命息長足姫ふ
本国帳に従三位荒太天神と有るは之ぬ　移社　神明祠　山神祠

舩津社　名和村にあり舟玉十二所と称す　延喜式二十五座内従官ふり　神宝　達摩正宗刀一腰長二尺一寸ぬく
例祭　三月十日　沼谷金玉九面鈴七〳〵ふり

名和千温飩　同村の名産と凡南都の小麦粉精麦して最上の極品うれば大也若石模
温飩と精麦〳〵誌由〳〵歟〳〵遠近すべて千須加久佐布里ふの誌邑ふる素麺と繋して名産ふと也年ふりて千
ふり波東坡が詩ふ一盂陽餅銀絲乱と作ふられ等れたぐいと形容せるゆく
浪糸れ二字さみだ〳〵見ふ
的面の影詠もいふべし

大高村　旧名大上の里永上ともかけて名ふりて桃川親元が日記に尾張國大
鷲郷大梅院被申安堵一事ぇいとふえふり又旧法ふ初メハ史ふといひし蔀
小火災ふりけれバ永注二年
所に大ふと改りぃぇ

大高藁　大ふ村ゆて作ふ称ふり　墨墓れ丈二三尺より四尺余に及ぶふの作ふもて葉莖
根ふみやふらかて煮或ハ煮或ハ浸漬ふするふも風味甚美ふして奥羽の産ふり
凡形状風味ふに他境名産の麦ふハ大ふ異ふり



大ふや
ふく
業の終れ
ふれ山
士朗

大高城址 大高村の東北の方にあり東西五十九間南北十八間今志水家其地をも
公其家臣山口左馬助子細あつて公に敵し剰へ今川家に降參せり志水是を聞及び
今川家の營と據へ今川勢糧道を遮り絶んとせしまゝ
神君十九歳の御初陣小豪傑と稱せられ
運送一おひしより大半敗
績して討死せしそ

鷲津砦址 同村の北東の方八町許りにあり東西十四間南北十五間四方かき切の砦
五百二十騎の勢を
擁籠せし砦の址

丸根砦址 大もり山四町許の方にあり敵
運送おひしより大半敗
績して討死せしそ

前闕白正二位内大臣豊臣秀次公 將軍家譜に關白内大臣初為三好山城守
養子一故号三好孫七郎一實三位法印子秀
吉養子となり尾張人物志畧二智多郡
大高村産父長尾武藏守吉房云し **忠義士技書** 織田上野介正信入道忠三郎信
濃において覧文三年癸卯二月

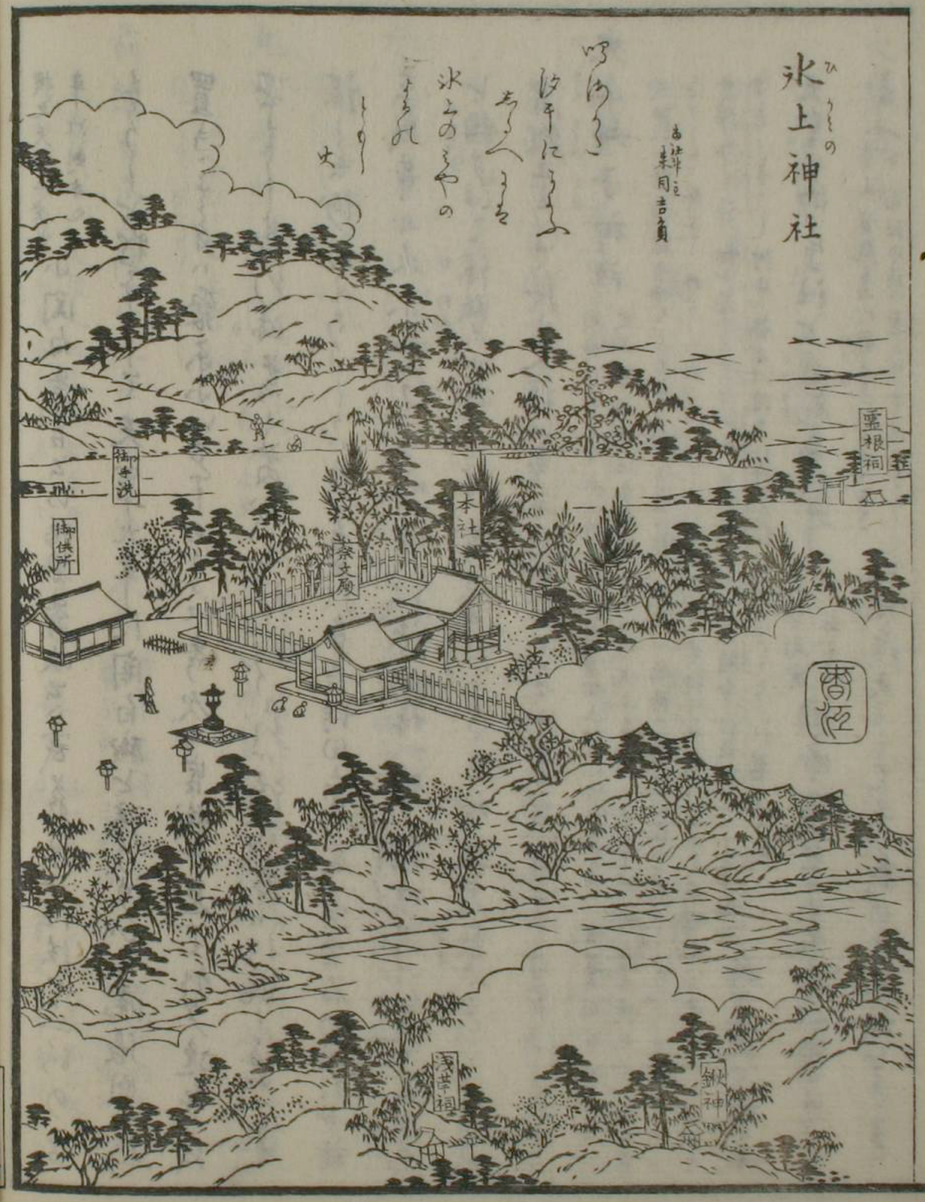
撰定天和三癸亥
年刊刻本之

小関白秀次公 秀吉公の姉智秀次公は武義丸三位法印一説の男
子一説に養子なりと一天正十九年に關白職を譲りうけて尾張國小牧へ
移りうつりて政事をとり天下の人悉く秀次公官職の急速なる事を疑ひ
事うつり甚敷疑惑あるべしと秀吉公に訴へ出るもの多かりしかども
三成等日来不和なりければ幸に法度を背へ時く酒宴せしを秀吉公是
を聞召されて秀次公に腹を切べきよし仰下されしかば法度に泥まじと
て自害せんとせしを諸大名達て諫申ければ高野山に登り青巌寺にて自害
をとげられしとぞ

史上姉子神社 同村にあり今永上神社と称せり 日本武尊東征の時此地にて
起臥にも猪鹿猿の獣こゝかれし姉子神社の祠号ハ猪鹿猿の獣の
とさして姉子と称せしに起るとぞ 日本武尊東征の時此地にて
ふ神社と称せり 延喜式神名帳に正二位氷上名神とあるもの是
安置まつりし神由ハ熱田縁起に詳なれば今こゝに略す

天皇の御守社と崇脱島に近し 是も
むかして当社の神事神幸のありし 社地広大にして千載の古木枝をさし

氷上神社


稲羽之白兎
白兎神社
本社
拝殿
御供所
八千矛神
大国主神
須勢理毘売命
天之御中主神
高皇産霊神
神皇産霊神
玉根神
稲羽之白兎


白兎神
白鳥山
元宮
白山神
大氏神
神明宮
物部神
拝殿
氷上の池


元興寺
観音
春天
方丈
玄関
庫裡
禅堂
仏殿
山門


長壽寺
周月院
鐘楼
天神

深窓を蓋ふて日暑を漏さぬ青蘚厚く地を封じことのさびさびさらさらしていとそゝろ〳〵見ゆる○神堂

神徒のほこら。推〳〵そゝろ〳〵

太刀一振 平治年中義朝尾州熱田の邸にて尾張の国司藤原成憲を誅せし時の太刀なりとぞ

例祭 八月初日花車練物あり

摂社 八劔社 源大夫社 紀大夫社 廣田社 稲荷社 山神社 天王社 白山社 白鳥社 已上九社今は廃して社地のみ存せり

元宮 上古氷上姉子の霊魂のりて庵の地とのふ

社宮 寛暖命の霊魂のりて則墓地と故か陵と通称す

常世社 火之大老波の男と為る大老波の女と二座を祀せるなり二神ともに尾張姓の神なれば大姓社とも称す

朝草社 火明命と天香語山命とを祭る

濱社 洛古谷と称す

両請社 星社 左右二社あり

祠官 久米氏

鷲頭山長壽寺 同村にあり源海宗紀州永源寺末なりと書記寺とのみして云々)しかも延宝四丙辰年志水甲斐守忠能の祖母孝雲院尊尼安養寺の本堂なりしを右のふうにぞ

本尊 阿弥陀仏 奥田太神宮の

観音堂 焼肉に

塔頭 元幢寺 周月院

尾張名所圖會巻之六終